SONY®

PROFESSIONAL DISC DRIVE UNIT

# PDW-U1

⚠警告　電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

このオペレーションマニュアルには、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**このオペレーションマニュアルをよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

CINEALTA

OPERATION MANUAL

Japanese/English

**2nd Edition (Revised 5)**

# 安全のために

電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

## 安全のための注意事項を守る

5～7ページの注意事項をよくお読みください。

## 定期点検を実施する

長期間安全に使用していただくために、定期点検を実施することをおすすめします。点検の内容や費用については、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。

## 故障したら使用を中止する

ソニーのサービス担当者、または営業担当者にご連絡ください。

## 万一、異常が起きたら

### 異常な音、におい、煙が出たら

↓

❶ 電源を切る。
❷ 電源コードや接続ケーブルを抜く。
❸ ソニーのサービス担当者、または営業担当者に修理を依頼する。

### 炎が出たら

↓

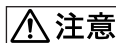
**すぐに電源を切り、消火する。**

### 警告表示の意味

オペレーションマニュアルおよび製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

**⚠警告**

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

**⚠注意**

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

**注意を促す記号**

**行為を禁止する記号**

**行為を指示する記号**

# 目次



JP

## 第 4 章　ファイルを扱う



## 第 5 章　ソフトウェアを使う



## 付録

⚠警告 



下記の注意を守らないと、**火災**や**感電**により**死亡**や**大けが**につながることがあります。

### 電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

- 設置時に、製品と壁やラック、棚などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に交換をご依頼ください。

### 油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所や取扱説明書に記されている使用条件以外の環境に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。

### 電源コードのプラグおよびコネクターは突き当たるまで差し込む

真っ直ぐに突き当たるまで差し込まないと、火災や感電の原因となります。

## ⚠注意

下記の注意を守らないと、**けが**をしたり
周辺の物品に**損害**を与えることがあります。

### 指定の電源コードを使う

指定以外の電源コードを使用すると、火災や感電の原因となることがあります。

### 内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。

### 不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度を充分にお確かめください。

### 製品の上に乗らない、重い物を載せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

### 分解や改造をしない

分解や改造をすると、火災や感電、けがの原因となることがあります。
内部の点検や修理は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。

### 指定の電源で使用する

付属の AC アダプターでお使いください。
付属以外の製品でのご使用は、火災の原因となります。

### コード類は正しく配置する

電源コードや接続ケーブルは、足に引っかけると本機の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。十分注意して接続・配置してください。

## その他の安全上のご注意

**ご注意**

日本国内で使用する電源コードセットは、電気用品安全法で定める基準を満足した承認品が要求されます。ソニー推奨の電源コードセットをご使用ください。

### 警告

設置の際には、容易にアクセスできる固定配線内に専用遮断装置を設けるか、使用中に、容易に抜き差しできる、機器に近いコンセントに電源プラグを接続してください。
万一、異常が起きた際には、専用遮断装置を切るか、電源プラグを抜いてください。

### 注意

ここに規定した以外の手順による制御および調整は、危険なレーザー放射の被爆をもたらします。

### レーザー特性

| | |
|---|---|
| 波長 | 400 ～ 410 nm |
| 発振形態 | 連続 |
| レーザー出力 | 135 mW（max. of pulse peak）、65 mW（max. of CW） |

本機は「クラス 1 レーザー製品」です。

# 概要

第 1 章

## 1-1 特長

PDW-U1 は、ノンリニア編集機と接続して、ビデオ / オーディオのデータの読み出しと書き込みができる小型・軽量のディスクドライブです。ノートタイプコンピューターとの組み合わせによるフィールドでの使用や、ノンリニア編集機との組み合わせによる安価な映像制作システムの構築に最適です。
本機の特長は以下のとおりです。

### すべての XDCAM フォーマットに対応

XDCAM [1] シリーズが採用する、MPEG HD422、MPEG HD、MPEG IMX、DVCAM のすべてのフォーマットおよびビットレートの読み出しおよび書き込みに対応しています。

1) XDCAM はソニー株式会社の商標です。

### フォーマット混在記録対応

フレーム周波数グループが一致する場合に限り、同一ディスク内に記録フォーマットが異なるクリップを記録したり、書き込んだりすることができます。[1]
本機が対応しているシステム周波数は、次表のようなフレーム周波数グループに分類されます。

1) システム周波数、ビデオ解像度、ビデオコーデック / ビットレート、またはオーディオチャンネル数 / ビット数のいずれかが一致しないとき、記録フォーマットが異なるクリップと見なされます。

| フレーム周波数グループ | システム周波数 |
|---|---|
| 59.94Hz | 59.94P |
| | 59.94i |
| | 29.97P |
| 50Hz | 50P |
| | 50i |
| | 25P |
| 23.98Hz | 23.98P |

本機をフォーマット混在記録モードにすると、たとえば、HD422 クリップとHD420SP クリップを 1 枚のディスクに記録することができます。

**ご注意**

記録フォーマットが異なるクリップは連続再生できないことがあります。

### 2 層ディスクに対応

従来の 1 層ディスク（23.3GB）に加えて、2 層ディスク（50GB）にも対応します。

### USB インターフェースによる IT フレンドリーシステム

インターフェースには、汎用性の高いHigh-Speed USB（USB 2.0）を採用して

いるため、コンピューターに簡単に接続できます。コンピューターから外部ドライブのデータファイルを読み込んだり、外部ドライブへデータファイルを書き込んだりするのと同じ感覚で使用することができます。

## ユーザーデータ記録モード

USB インターフェースを経由して、プロフェッショナルディスク上にユーザーデータ（XDCAM の AV ファイル以外のファイル）を PC データとして記録することができます。最大で 46.4GB（2 層ディスク PFD50DLA 使用の場合）のデータ記録が可能で、プロフェッショナルディスクをデータ記録用のメディアとしても使用できます。

**ご注意**

UserData ディレクトリーに記録されたファイルを直接編集・実行しようとすると、アプリケーションの種類、設定により、エラーの原因となることがあります。
特に、起動したフォルダー下に一時的な作業領域を作成しようとする種類のアプリケーションのファイルや、実行ファイル形式のファイルの直接実行は行わないでください。

## 高速な転送速度を実現

新開発オプティカルドライブの搭載により、ノンリニア編集システムから高速なアクセス（読み出し最大速度 120Mbps/書き込み最大速度 84Mbps）が可能です。

## 付属のソフトウェアによってプレビューや簡易編集が可能

付属ソフトウェア XDCAM Viewer PDZ-VX10（Windows 用）を使えば、簡単に素材をプレビューできます。さらに、付属の Proxy Browsing Software PDZ-1（Windows 用）を使うことで、簡易編集やメタデータの付加が可能になります。
また、付属の XDCAM Transfer PDZK-P1（Macintosh 用）により、アップルのビデオ編集ソフトウェア Final Cut Pro [1] で XDCAM 素材を使用することができるようになります。

1) Final Cut Pro は、米国およびその他の国で登録されている Apple, Inc. の商標です。

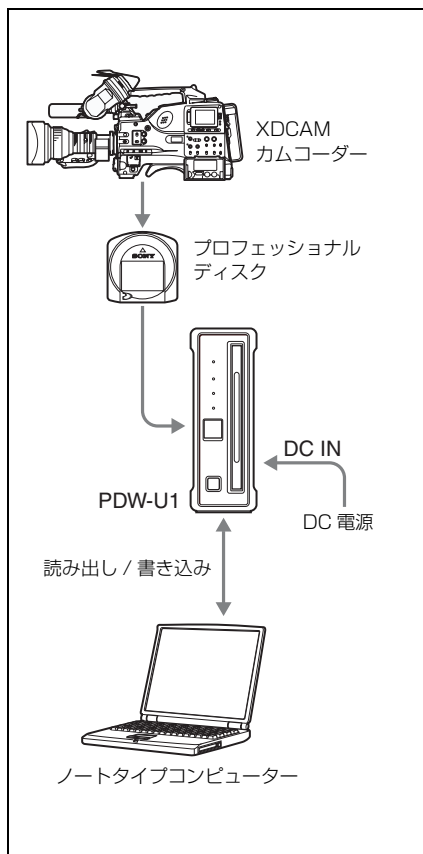
## 小型、軽量のフィールド仕様

フィールドに携行できるよう小型、軽量設計になっています。また、耐衝撃性が高く、防塵性にすぐれた外装およびフレーム構造を採用しています。

## ユーティリティーソフトウェアによるコンピューターからのメニュー操作

付属のユーティリティーソフトウェアを、本機と接続するコンピューターにインストールすることによって、コンピューターから各種メニューの操作や設定、バージョンアップなどを行うことができます。

# 1-2 使用例

次図は、XDCAM カムコーダーで収録した素材を、本機に接続したコンピューターで読み出しおよび書き込みを行うシステムの例です。

# 1-3 付属ソフトウェア

## 1-3-1 ソフトウェア一覧

本機には、以下のソフトウェアが付属しています。

| ソフトウェア | 対象 OS | 機能 | 収録先 |
|---|---|---|---|
| XDCAM Drive Software | Windows/ Macintosh | 本機に接続したコンピューター上で、ビデオやオーディオのデータをファイルとして扱うことができます。 | PDW-U1 CD-ROM |
| ユーティリティーソフトウェア | Windows/ Macintosh | 本機に接続したコンピューター上で、以下の機能を実行できます。<br>• 機器情報の表示<br>• ディスクのフォーマットや修復<br>• ファームウェアの更新<br>• 各種の設定 | |
| Proxy Browsing Software PDZ-1 | Windows | プロフェッショナルディスクに記録したクリップを整理できます。撮影されたクリップを再生し、後に行う編集作業のために、編集素材として適切な部分を選択してマークを付けておくことができます。さらに、PDZ-1 上で、マークをつけたショット周辺の映像やクリップを並べて、簡単な編集リストを作成することもできます。また、プロフェッショナルディスク機器に接続して、収録中のクリップに対してマークやコメントを付けることもできます。 | XDCAM Application Software CD-ROM |
| XDCAM Viewer PDZ-VX10 | Windows | プロフェッショナルディスクに記録された素材（MXF ファイル）の映像や音声を再生し、確認できます。プロキシ AV データだけでなく、素材をオリジナル画質のままで再生することもできます。また、MXF ファイルのメタデータ情報やスタートタイムコードなどを確認できます。 | |
| XDCAM Transfer PDZK-P1 | Macintosh | プロフェッショナルディスクに記録された素材（MXF ファイル）を、アップルの映像編集ソフトウェア Final Cut Pro で扱うことができます。 | |

## 1-3-2 動作環境

付属のソフトウェアは、以下の環境で動作検証をしています。

**ご注意**

この動作検証結果は、すべてのコンピューターに適用されるものではありません。

### Windows

| 項目 | 条件 |
|---|---|
| プロセッサー | Intel Core 2 Duo 2.66GHz 以上または Intel Xeon 2GHz 以上 |
| メモリー | 1GB 以上 |
| HDD の空き容量 | 2GB 以上 |
| ディスプレイ | — |
| OS | Microsoft Windows XP Professional Service Pack 3 以降<br>Microsoft Windows Vista Business 32/64 ビット版 Service Pack 2 以降<br>Microsoft Windows Vista Ultimate 32/64 ビット版 Service Pack 2 以降<br>Microsoft Windows 7 Professional 32/64 ビット版<br>Microsoft Windows 7 Ultimate 32/64 ビット版 |
| その他 | High-Speed USB（USB 2.0）対応（本機との接続には、High-Speed USB（USB 2.0）ホストコントローラーが必要です。） |

### Macintosh

| 項目 | 条件 |
|---|---|
| プロセッサー | Intel Core 2 Duo 2.2GHz 以上または Intel Xeon 2GHz 以上 |
| メモリー | 1GB 以上 |
| ハードディスクの空き容量 | 2GB 以上 |
| ディスプレイ | 解像度：1280 × 1024 ピクセル以上 |
| OS | Mac OS X 10.5.8 以降<br>Mac OS X 10.6.2 以降 |
| その他 | High-Speed USB（USB 2.0）対応（本機との接続には、High-Speed USB（USB 2.0）ホストコントローラーが必要です。） |

◆ Apple Final Cut Pro をお使いのときは、最新の XDCAM Transfer PDZK-P1 と併せてご使用ください。

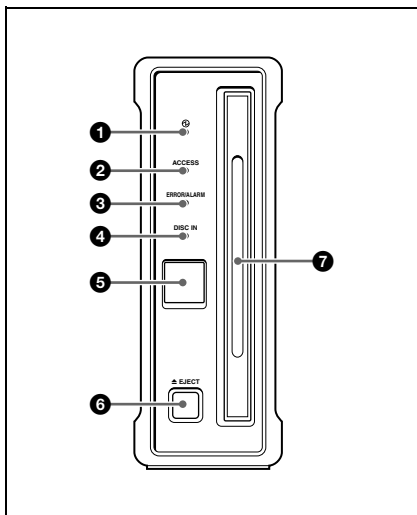
◆ 各ソフトウェアについて、詳しくは 32 ページをご覧ください。

**ご注意**

上記の動作環境について以下の点にご注意ください。

- XDCAM Drive SoftwareはPowerPCおよびMac OS X 10.4には対応していません。
- PowerPC採用のMacおよびMac OS X 10.4.11をご使用の場合、XDCAM Transfer PDZK-P1は読み取り専用です。

# 各部の名称と働き

## 2-1 前面パネル

### ❶ ⏻（電源）インジケーター

後面の ⏻（電源）ボタンがオンに設定されているとき、緑で点灯します。

### ❷ ACCESS（アクセス）インジケーター

コンピューターからディスクにアクセスしているとき、青で点滅します。

**ご注意**

ACCESS インジケーター点滅中に後面の ⏻（電源）ボタンをオフにしたり電源コードを抜いたりしないでください。
ディスク内のデータが破壊される恐れがあります。

### ❸ ERROR/ALARM（エラー / アラーム）インジケーター

本機に異常が発生すると、次表のように赤で点灯または点滅します。

| インジケーター | 意味 |
|---|---|
| 点灯 | 結露が発生した。 |
| 0.25 秒間隔で点滅 | エラー（主にハードウェアに起因する異常）が発生した。 |
| 1 秒間隔で点滅 | 上記以外のアラームが発生した。 |

**ご注意**

アラームの内容によっては、インジケーターが 5 秒間だけ点滅または点灯する場合があります。

◆ 本機で発生したアラームは、ユーティリティーソフトウェアのアラームログで確認することができます。詳しくは、ユーティリティーソフトウェアのヘルプをご覧ください。

◆ インジケーターが 0.25 秒間隔で点滅していて、かつアラームログで確認できない異常は、故障の可能性があります。このような場合は、ソニーのサービス担当者にご連絡ください。

異常な状態が解消されると、インジケーターは消灯します。

### ❹ DISC IN（ディスクイン）インジケーター

本機にディスクが挿入されているとき、緑で点灯します。

### ❺ マニュアルイジェクト機構部

本機に電源が供給されない状態でディスクを取り出すとき、この部分のカバーを開け、十字穴付きネジを反時計方向に回します。

◆ 詳しくは、「3-4-5 電源が供給されない状態でディスクを取り出すには」（22 ページ）をご覧ください。

### ❻ EJECT（ディスク排出）ボタン

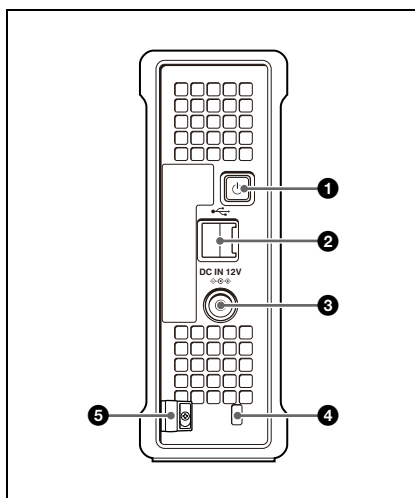
ディスクを取り出します（21 ページ参照）。

**ご注意**

- このボタンはディスクアクセス中は無効になります。ディスクアクセスを停止してから取り出すか、コンピューターからの操作でディスクを取り出してください。
- 本機を Macintosh に接続しているときは、このボタンは無効になります。

### ❼ ディスク挿入部

ラベル面を右側にしてディスクを挿入します（21 ページ参照）。

## 2-2 後面パネル

### ❶ ⏻（電源）ボタン

電源を ON/OFF します。

### ❷ USB 端子（Hi-Speed USB 対応）

付属の USB ケーブルを使ってコンピューターに接続します。

**ご注意**

USB 端子を使って接続したコンピューターの映像 / 音声が出力されないときは、USB ケーブルを外して、もう一度まっすぐに接続し直してください。

### ❸ DC 電源入力端子

付属の AC アダプターと電源コード（別売）を使って AC 電源に接続します。

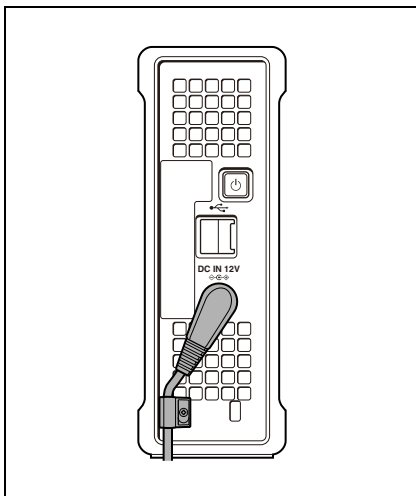
### ❹ 盗難防止キー取り付け穴

市販の盗難防止キーを取り付けることができます。

◆ 盗難防止キーの使いかたについては、ご使用になる盗難防止キーに付属の説明書をご覧ください。

### ❺ ケーブルクランパー

AC アダプターのケーブルを固定するために使用します。
図のようにケーブルクランパーにケーブルを挟み込んでください。

# 準備　第3章

## 3-1 ソフトウェアのインストール

本機を使用するためには、本機を接続するコンピューターに各ソフトウェアをあらかじめインストールしておきます。

**ご注意**

XDCAM Drive Software と、一部のアンチウイルスソフトウェア、スパイウェアツール、OS 標準以外の UDF2.5 ファイルシステムドライバーを含む製品とを同時にインストールすると、動作が不安定になる場合があります。
インストールが正しく終了できない場合は、それらのソフトウェアの競合や設定をご確認のうえ、再度インストールを行ってください。

### 3-1-1 Windows の場合

#### XDCAM Drive Software とユーティリティーソフトウェアをインストールするには

付属の PDW-U1 CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れ、CD-ROM の XDCAM Drive Software フォルダー内に収録されている Setup.exe ファイルを実行してください。順次表示される指示に従って操作すると、XDCAM Drive Software に続いて、ユーティリティーソフトウェアがインストールされます。

**ご注意**

- バージョンの古い XDCAM Drive Software がインストールされている場合、アンインストールが必要です。新しいバージョンをインストールする前に、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」から、Sony XDCAM Drive Software を削除し、必ずコンピューターを再起動してください。
- インストールを実行すると、それ以前の設定項目の値は初期化されます。

### 3-1-2 Macintosh の場合

#### XDCAM Drive Software とユーティリティーソフトウェアをインストールするには

付属の PDW-U1 CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れ、CD-ROM の Macintosh フォルダー内に収録されている XDCAM Drive Software.dmg を解凍してから、インストールパッケージを実行してください。

順次表示される指示に従って操作すると、XDCAM Drive Software とユーティリティーソフトウェアがインストールされます。

**ご注意**

XDCAM Drive Software およびユーティリティーソフトウェアはインストールによって上書きされます。Ver.1.0 のユーティリティーソフトウェアを工場出荷時とは異なる場所にインストールして使用されていた場合は、手動で削除してください。
また、Ver.2.1 以降の設定項目は、新しいバージョンのユーティリティーソフトウェアをインストールした後も継承されます。

# 3-2 接続と設定

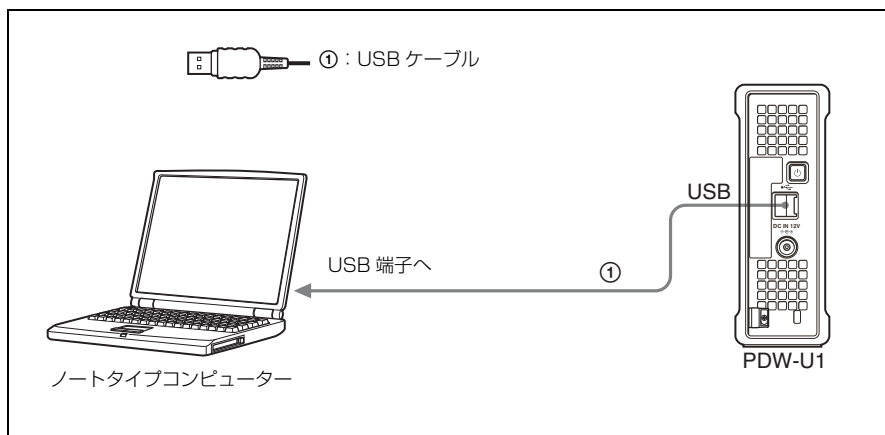
## 3-2-1 コンピューターとの接続

本機とコンピューターを接続することによって、ユーティリティーソフトウェアや他の付属のソフトウェアを使用することができます。

**ご注意**

- あらかじめ、XDCAM Drive Software（17 ページ参照）をインストールする必要があります。
- Windows 搭載のコンピューターに接続されている PDW-U1 の接続を解除する場合は、コンピューター側で「ハードウェアの安全な取り外し」を実行後にケーブルを抜いてください。

第3章 準備

### 接続例

# 3-3 電源の準備

本機は AC アダプターを電源として使用します。
本機後面の DC 電源入力端子 （15 ページ）に付属の AC アダプターと電源コード（別売）を接続します。

**ご注意**

本機は、USB ケーブルを通じて給電することはできません。



# 3-4 ディスクの取り扱い

## 3-4-1 読み出し・書き込み可能なディスク

本機では、以下の Professional Disc（プロフェッショナルディスク）の読み出しおよび書き込みが可能です。

- PFD23（容量 23.3GB）
- PFD23A（容量 23.3GB）
- PFD50DLA（容量 50.0GB）

**ご注意**

本機では、以下のディスクの読み出しおよび書き込みはできません。

- Blu-ray Disc
- Professional Disc for Data

## 3-4-2 取り扱い上の注意

### 取り扱いかた

プロフェッショナルディスクはカートリッジに収納されているため、ほこりや指紋を気にせずに手軽に取り扱えるように設計されています。ただし、落下等により強い衝撃をカートリッジに与えると、破損、ディスクへの傷の原因となることもあります。傷などがつくと、録画できなくなったり、録画した内容を再生できなくなることがありますので、取り扱いには充分注意し、大切に保管してください。

- カートリッジ内のディスクには直接触れないでください。

- 故意にシャッターを開けると破損の原因になります。
- カートリッジを分解しないでください。
- インデックスシールは付属のシールを推奨します。正しい位置にお貼りください。

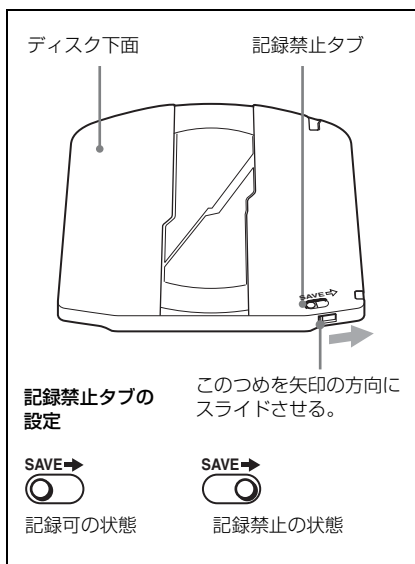
### 保管のしかた

- 直接日光が当たるところなど、温度の高いところや湿度の高いところには置かないでください。
- カートリッジにほこりなどが入る可能性のあるところには放置しないでください。
- カートリッジはケースに入れて保存してください。

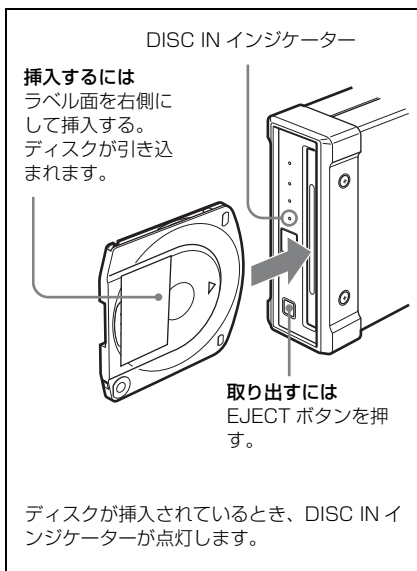
### お手入れのしかた

- カートリッジ表面についたほこりやゴミは、乾いた布で軽くふき取ってください。
- 結露した場合は、十分乾いてからご使用ください。

## 3-4-3 誤消去を防止するには

ディスクの記録内容を誤って消してしまうのを防ぐには、次図のようにディスク下面（ラベル面の裏側）にある記録禁止タブを矢印の方向に設定しておきます。

## 3-4-4 ディスクを出し入れするには

ディスクの出し入れは、後面パネルの⏻（電源）ボタンをオンにしてインジケーターを点灯させた状態で、次図に示すように行ってください。

ディスクが挿入されているとき、DISC IN インジケーターが点灯します。

**ご注意**

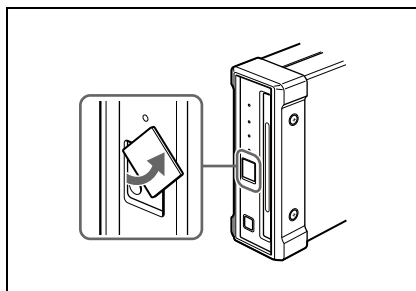
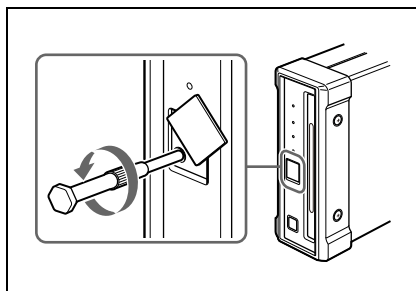
本機を Macintosh に接続しているとき、フォーマットされていないディスクを本機に挿入した場合は、ユーティリティーソフトウェアの U1 Utility メニューから「イジェクト」を選択してディスクを排出してください。

## 3-4-5 電源が供給されない状態でディスクを取り出すには

電源が供給されない場合、EJECT ボタンを押してもディスクを取り出すことができなくなります。このような場合は、緊急の処置として以下のように手動で取り出してください。

**1** 本機の電源を切る。

**2** 前面パネルのマニュアルイジェクト機構部のカバーを図のように反時計方向に回転させる。

このとき、カバーを必要以上に回転させないよう注意してください。

**3** ネジの位置をよく確認し、プラスドライバーを使用して、ディスクが排出されるまで反時計方向にネジを回す。

ディスクを取り出した後、ネジを元に戻す必要はありません。電源を入れることにより、再び通常どおり動作するようになります。

**4** カバーを元に戻す。

## 3-4-6 メディア保護機能

本機にはメディア保護機能が搭載されています。

### メディア保護機能とは

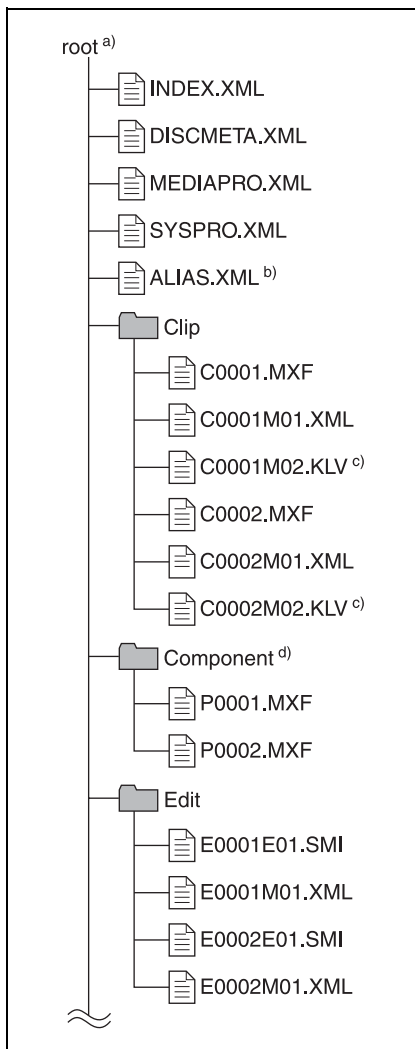
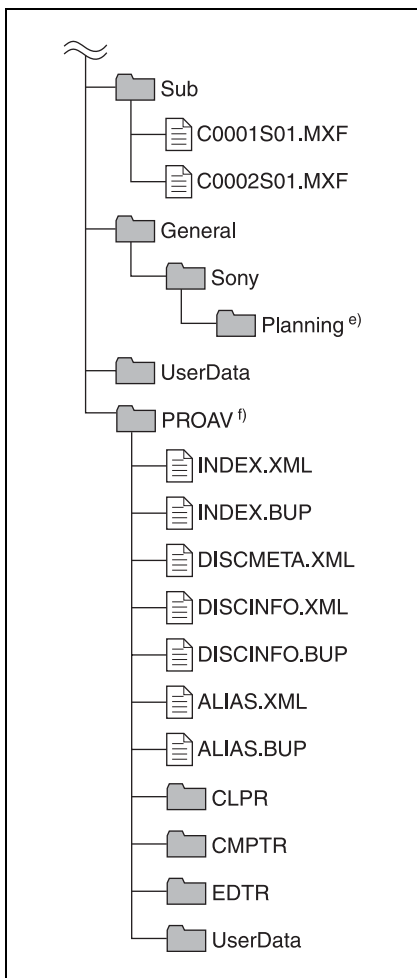
本機にディスクが挿入されている状態で、後面の ⏻（電源）ボタンを押してオフにした場合や、電源コードを抜くなどして AC 電源が断たれた場合に、自動的にスタンバイオフモードに移行し、ディスクエラーを防ぐ機能です。

# ファイルを扱う

## 4-1 概要

本機にコンピューターを接続すると、ビデオやオーディオなどのデータをファイルとして扱うことができます。

### 4-1-1 ディレクトリー構造

コンピューター上で見ることができるディスク内のディレクトリー構造を次図に示します。

a) ルートディレクトリー
b) ユーティリティーソフトウェアのユーザー設定画面で「ファイル名形式」が「free」に設定されているときのみ
c) 存在する場合のみ表示
d) PDW-HR1 でボイスオーバー編集を実行すると生成されるディレクトリーとファイル
e) プランニングメタデータを保存するディレクトリー。詳しくは、プランニングメタデータに対応している XDCAM 機器のマニュアルをご覧ください。
f) ユーティリティーソフトウェアのユーザー設定画面で「PROAV フォルダを隠す」にチェックが入っているときは非表示

## 4-1-2 ファイル操作の項目

ここでは、ファイル操作項目の実行の可否について、それぞれのディレクトリーに格納されているファイルごとに表に示します。

## ルートディレクトリー

| ファイル名 | 内容 | 操作項目 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 読み出し | 書き込み | 名前の変更 | 作成 | 削除 |
| INDEX.XML | ディスク内の AV 素材の管理用データが記述されている。 | 可 | 不可 | 不可 | 不可 | 不可 |
| DISCMETA.XML | ディスクの属性を示すメタデータが記述されている。 | 可 | 可 [a] | 不可 | 不可 | 不可 |
| MEDIAPRO.XML | ディスク内の AV 素材の一覧、基本属性、関連情報、およびアクセス手段が記述されている。 | 可 | 不可 | 不可 | 不可 | 不可 |
| SYSPRO.XML | 機器のシステム設定情報、およびメニュー設定情報が記述されている。 | 可 | 不可 | 不可 | 不可 | 不可 |
| ALIAS.XML [b] | クリップやクリップリストに任意の名前を付けるための変換テーブルが記述されている。 | 可 | 不可 | 不可 | 不可 | 不可 |
| その他のファイル | 上記以外のファイル | – | 不可 | – | 不可 | – |

a) XDCAM 対応機器が書き込み可能なファイルのみ

b) ユーティリティーソフトウェアのユーザー設定画面で「ファイル名形式」が「free」に設定されているときのみ

**ご注意**

- ルートディレクトリー内にディレクトリーを作成することはできません。
- ルートディレクトリー内のディレクトリー（Clip、Component、Edit、Sub、UserData、PROAV、および General）の削除、および名前の変更はできません。

第 4 章　ファイルを扱う

## Clip ディレクトリー

| ファイル名 | 内容 | 操作項目 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 読み出し | 書き込み | 名前の変更 | 作成 | 削除 |
| C*.MXF [a)] | 記録時に作成されるクリップファイル（MXF ファイル）<br>*：0001 ～ 9999 | 可 | 可 [b) c)] | 可 | 可 [b)] | 可 [d)] |
| C*M01.XML [a)] | C*.MXF ファイル作成時に自動生成されるメタデータファイル<br>*：0001 ～ 9999 | 可 | 可 [e)] | 不可 [f)] | 不可 [g)] | 不可 [h)] |
| その他のファイル | 上記以外のファイル | – | 不可 | – | 不可 | – |

a)「C*」の部分に任意の名前が付けられたファイルの扱いが可能
b) XDCAM 対応機器が書き込み可能で、かつディスクの記録済み部分のフォーマット（システム周波数）と記録フォーマット（MPEG HD/IMX およびオーディオチャンネル数）が一致しており、2 秒以上のファイルのみ
c) 上書きは不可
d) ユーティリティーソフトウェアの「ドライブを記録禁止にする」にチェックがない状態のとき、任意のクリップの選択削除が可能
e) XDCAM 対応機器が書き込み可能なファイルのみ
f) C*.MXF ファイルの「C*」の部分を変更すると、「C*」の部分が同じ名前の C*M01.XML ファイルも自動的に変更される
g) C*.MXF ファイルを作成すると、「C*」の部分が同じ名前の C*M01.XML ファイルが自動的に生成される
h) C*.MXF ファイルを削除すると、「C*」の部分が同じ名前の C*M01.XML ファイルも自動的に削除される

**ご注意**

Clip ディレクトリー内にディレクトリーを作成することはできません。

## Component ディレクトリー

| ファイル名 | 内容 | 操作項目 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 読み出し | 書き込み | 名前の変更 | 作成 | 削除 |
| P*.MXF [a)] | PDW-HR1 においてボイスオーバー編集実行時に生成されるオーディオクリップファイル（MXF ファイル）<br>*：0001 ～ 0099 | 可 [a)] | 可 [b) c) d) e)] | 可 [e)] | 可 [b) d)] | 可 [f)] |
| その他のファイル | 上記以外のファイル | 不可 | 不可 | 不可 | 不可 | 不可 |

a)「P*」の部分に任意の名前が付けられたファイルの扱いが可能
b) XDCAM 対応機器が書き込み可能で、2 秒以上のファイルのみ

第 4 章　ファイルを扱う

c) 上書きは不可
d) 同時に複数のファイルを開くことはできない
e) ユーティリティーソフトウェアのユーザー設定画面で「ファイル名形式」が「free」に設定されているときのみ
f) 任意のクリップの選択削除が可能

**ご注意**

Component ディレクトリー内にディレクトリーを作成することはできません。

## Edit ディレクトリー

| ファイル名 | 内容 | 操作項目 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 読み出し | 書き込み | 名前の変更 | 作成 | 削除 |
| E*E01.SMI a) | クリップリストファイル<br>*：0001 ～ 0099 | 可 | 可 b) | 可 | 可 c) | 可 d) |
| E*M01.XML a) | E*E01.MXF ファイル作成時に自動生成されるメタデータファイル<br>*：0001 ～ 0099 | 可 | 可 b) | 不可 e) | 不可 f) | 不可 g) |
| その他のファイル | 上記以外のファイル | – | 不可 | – | 不可 | – |

a)「E*」の部分に任意の名前が付けられたファイルの扱いが可能
b) XDCAM 対応機器が書き込み可能なファイルのみ、部分書き込みは不可
c) XDCAM 対応機器が書き込み可能なファイルのみ
d) ユーティリティーソフトウェアの「ドライブを記録禁止にする」にチェックがない状態のとき
e) E*E01.SMI ファイルの「E*」の部分を変更すると、「E*」の部分が同じ名前の E*M01.XML ファイルも自動的に変更される
f) E*E01.SMI ファイルを作成すると、「E*」の部分が同じ名前の E*M01.XML ファイルが自動的に生成される
g) E*E01.SMI ファイルを削除すると、「E*」の部分が同じ名前の E*M01.XML ファイルも自動的に削除される

**ご注意**

Edit ディレクトリー内にディレクトリーを作成することはできません。

## Sub ディレクトリー

| ファイル名 | 内容 | 操作項目 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 読み出し | 書き込み | 名前の変更 | 作成 | 削除 |
| C*S01.MXF a) | C*.MXF ファイル作成時に自動生成されるプロキシ AV データ（MXF ファイル）<br>*：0001 ～ 9999 | 可 | 不可 | 不可 b) | 不可 c) | 不可 d) |
| その他のファイル | 上記以外のファイル | – | 不可 | – | 不可 | – |

a)「C*」の部分に任意の名前が付けられたファイルの扱いが可能
b) Clip ディレクトリーの C*.MXF ファイルの「C*」の部分を変更すると、Sub ディレクト

第4章　ファイルを扱う

リーの「C*」の部分が同じ名前の C*S01.MXF ファイルも自動的に変更される
c) Clip ディレクトリーで C*.MXF ファイルを作成すると、Sub ディレクトリーに「C*」の部分が同じ名前の C*S01.MXF ファイルが自動的に生成される
d) Clip ディレクトリーの C*.MXF ファイルを削除すると、Sub ディレクトリーの「C*」の部分が同じ名前の C*S01.MXF ファイルも自動的に削除される

**ご注意**

Sub ディレクトリー内にディレクトリーを作成することはできません。

## General ディレクトリー

| ファイル名 | 内容 | 操作項目 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 読み出し | 書き込み | 名前の変更 | 作成 | 削除 |
| 任意のファイル | | 可 | 可 | 可 a) | 可 | 可 b) |

a) ファイル名は UTF-8 で 63 バイト以下（付けられるファイル名の長さ（拡張子を含む）は、文字種や OS の種類によっては最大 21 文字までに制限されることがあります。）
b) ユーティリティーソフトウェアの「ドライブを記録禁止にする」にチェックがない状態のとき

General ディレクトリー内では、ディレクトリーに関する以下の操作を行うことができます。

- ディレクトリーの作成（General ディレクトリーを含めて 63 階層まで作成可能）
- 作成したディレクトリーの削除および名前の変更

## UserData ディレクトリー

| ファイル名 | 内容 | 操作項目 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 読み出し | 書き込み | 名前の変更 | 作成 | 削除 |
| 任意のファイル | | 可 | 可 | 可 a) | 可 | 可 |

a) ファイル名に使用できる文字の上限は 63 バイト以下、使用可能な文字コードは UTF-8（付けられるファイル名の長さ（拡張子含む）は、文字種によっては 21 文字までに制限されることがあります。）

UserData ディレクトリー内では、ディレクトリーに関する以下の操作を行うことができます。

- ディレクトリーの作成（UserData ディレクトリーを含めて 62 階層まで作成可能）
- 作成したディレクトリーの削除および名前の変更

**ご注意**

UserData ディレクトリーに記録されたファイルを直接編集・実行しようとすると、アプリケーションの種類、設定により、エラーの原因となることがあります。
特に、起動したフォルダー下に一時的な作業領域を作成しようとする種類のアプリケーションのファイルや、実行ファイル形式のファイルの直接実行は行わないでください。

# 4-2 ファイルアクセスの準備

**1** 本機をコンピューターに接続する（19 ページ）。

**2** 本機とコンピューターの電源をオンにする。

**3** ユーティリティーソフトウェアのセットアップメニューで、必要に応じて項目を設定する。

◆ セットアップメニューについては、ユーティリティーソフトウェアのヘルプをご覧ください。

**4** 本機にディスクを挿入する（21 ページ）。

# 4-3 ファイルアクセスの操作

## ノンリニア編集ソフトウェアで操作する

◆ ファイルアクセスの操作については、ご使用になる編集ソフトウェアに付属のマニュアルをご覧ください。

## エクスプローラ /Finder で操作する

Windows のエクスプローラまたは、Macintosh の Finder を起動し、本機が任意のドライブに割り当てられていることを確認してください。（ご使用の周辺機器の接続状況によって、割り当てられるドライブは異なります。）

本機ディスク内のファイルは、ローカルドライブやネットワークコンピューター上のファイルと同様に操作することができます。

**ご注意**

ファイルの種類によっては、ファイル操作できない項目があります。

◆ 詳しくは、「4-1-2 ファイル操作の項目」（25 ページ）をご覧ください。

### ディスクの取り出しをコンピューターで行うには

Windows の場合は、エクスプローラに表示されている本機のアイコンを右クリックして表示されるメニューから「取り出し」を選択します。

Macintosh の場合は、Finder の本機のアイコンの右にある「取り出し」ボタンを

クリックするか、Dock 内の取り出しアイコンにドラッグアンドドロップします。

## Proxy Browsing Software PDZ-1 を使う（Windows のみ）

Proxy Browsing Software PDZ-1 をインストールしたコンピューターを本機に接続し、ディスクに記録されたプロキシAV データおよびメタデータをファイルとして本機から転送することができます。コンピューター側で PDZ-1 を使用して、転送されたプロキシ AV を閲覧したり、メタデータ（タイトル、コメント、エッセンスマークなど）に追加や変更を加えたり、クリッププリストを作成したりすることができます。

◆ Proxy Browsing Software PDZ-1 の機能の詳細や操作方法については、ヘルプをご覧ください。

## XDCAM Transfer PDZK-P1 を使う（Macintosh のみ）

XDCAM Transfer PDZK-P1 を使うと、XDCAM 機器で記録されたデータを、アップルのビデオ編集ソフトウェア Final Cut Pro へファイルとして転送することができます。また、転送されたプロキシ AV を閲覧したり、クリップをサムネイル表示させたりできます。

◆ XDCAM Transfer PDZK-P1 の機能の詳細や操作方法については、ヘルプをご覧ください。

# ソフトウェアを使う

# 5-1 ユーティリティーソフトウェアの起動と終了

## 5-1-1 起動する

あらかじめ本機とコンピューターを接続しておきます。

◆ 接続については、「3-2-1 コンピューターとの接続」（19 ページ）をご覧ください。

### Windows の場合

本機に接続したコンピューターで以下のいずれかを実行します。

- ユーティリティーソフトウェアをインストールしたフォルダーを開き、U1_Utility.exe をダブルクリックする。
- ［スタート］ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」＞「Sony XDCAM Drive」＞「U1 Utility」を選択する。

ユーティリティーソフトウェアは OS の種類に応じて以下のように動作します。

### Windows XP では

動作はユーザーアカウントの種類によって異なります。

| ユーザーアカウントの種類 | 動作 |
|---|---|
| 制限付きアカウント | 起動しない |
| コンピューターの管理者 | 起動し、ホーム画面を表示 |

### Windows Vista では

動作はユーザーアカウントの種類（コンピューターの管理者、標準ユーザー）に関係なく、ユーザーアカウント制御の設定（有効、無効）によって異なります。

| ユーザーアカウント制御 | 動作 |
|---|---|
| 有効 | 確認後、起動 a) |
| 無効 | 起動 |

a) ユーザーアカウント制御を無効にして管理者権限で続行することを確認するダイアログが表示されます。
許可すると、ユーティリティーソフトウェアが起動し、ホーム画面が表示されます。この場合は、ユーティリティーソフトウェアのすべての機能を使用できます。
許可しないと、ユーザーアカウント制御下での制限事項が表示されたあと、ユーティリティーソフトウェアが起動します。この場合は、ユーザー設定画面の設定変更およびログ削除の機能は使用できません。

### Windows 7 では

動作はユーザーアカウントの種類（管理者、標準ユーザー）とユーザーアカウント制御の設定（有効 : レベル 1 〜 3、無効 : レベル 0）によって異なります。

#### 管理者の場合

| ユーザーアカウント制御 | 動作 |
|---|---|
| 有効 | 確認後、起動 a) |
| 無効 | 起動 |

a) ユーザーアカウント制御を無効にして管理者権限で続行することを確認するダイアログが表示されます。
許可すると、ユーティリティーソフトウェアが起動し、ホーム画面が表示されます。この場合は、ユーティリティーソフトウェアのすべての機能を使用できます。
許可しないと、ユーザーアカウント制御下での制限事項が表示されたあと、ユーティリティーソフトウェアが起動します。この場合は、ユーザー設定画面の設定変更およびログ削除の機能は使用できません。

#### 標準ユーザーの場合

| ユーザーアカウント制御 | 動作 |
|---|---|
| 有効 | 確認後、制限モードで起動 a) |
| 無効 | 確認後、制限モードで起動 a) |

a) 昇格確認ダイアログが表示されたあと、ユーティリティーソフトウェアが起動します。この場合は、ユーザー設定画面の設定変更およびログ削除の機能は使用できません。

### Macintosh の場合

ユーティリティーソフトウェアをインストールしたフォルダーを開き、U1 Utility をダブルクリックします。

ユーティリティーソフトウェアのホーム画面が表示されます。

**ご注意**

ユーティリティーソフトウェアはコンピューターの管理者権限でログオンしないとユーザー設定画面の設定変更はできません。

## 5-1-2 終了する

### Windows の場合

ウィンドウ右上の×（閉じる）ボタンをクリックします。

### Macintosh の場合

U1 Utility メニューから「U1 Utility を終了する」を選択します。

## 5-1-3 ユーティリティーソフトウェアの自動起動について（Windows のみ）

Windows 環境でご使用の際、以下のような条件でユーティリティーソフトウェアが自動的に起動し、ホーム画面が表示されることがあります。

- **フォーマットしていないディスクが本機に挿入された場合 :**
  ホーム画面のツリー表示部で [ ディスク操作メニュー ] → [ フォーマット画面 ] を選択し、挿入されているディスクをフォーマットすることができます。
- **本機に挿入された記録済みディスクが何らかの原因で正常に読み取れなかった場合 :**
  ホーム画面のツリー表示部で [ ディスク操作メニュー ] → [ ボリューム修復画面 ] を選択し、ディスク情報を確認することができます。

**ご注意**

- ボリューム修復は主に、データ書き込み中に不慮の電源または USB 接続の

切断などが発生し、書き込みを正常に終了できなかった結果、コンピューターがそのディスクを認識できなくなっている場合を想定した操作です。この操作は、すべてのデータや以前の状態の完全な復元を保証するものではありません。表示されるディスク情報でエラーコードを確認し、できれば修復後のディスクが他の機器で使用できるかどうかも確認したうえで、お客様の責任で行ってください。

- Windows XP 上で制限付きアカウントのユーザーとしてコンピューターを操作している場合は、ユーティリティーソフトウェアは起動しません。

# 5-2 Proxy Browsing Software PDZ-1 の起動と終了（Windows のみ）

## 5-2-1 起動する

あらかじめ本機とコンピューターを接続しておきます。

◆ 接続については、「3-2-1 コンピューターとの接続」（19 ページ）をご覧ください。

本機に接続したコンピューターで以下のいずれかを実行します。

- **データを PC に取得して作業を行うファイル取得モードで使用する場合：**
  Windows の［スタート］ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」>「PDZ-1」>「PDZ-1」を選択する。
  インストール直後の起動時のみ、Folder Select ウィンドウが表示されます。PDZ-1 のデータを保存するフォルダーを、ここで選択してください。2 回目以降は、PDZ-1 のメインウィンドウが表示されます。
- **プロフェッショナルディスク上のデータを直接読み書きするダイレクトアクセスモードで使用する場合：**
  Windows の［スタート］ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」>「PDZ-1」>「PDZ-1 Direct Mode」を選択する。
  PDZ-1 のメインウィンドウが表示されます。ウィンドウのタイトルバーには

「PDZ-1 FAM Direct Mode」と表示されています。

### 5-2-2 終了する

メニューバーで「ファイル」>「終了」を順番にクリックします。

## 5-3 XDCAM Viewer PDZ-VX10の起動と終了（Windowsのみ）

### 5-3-1 起動する

あらかじめ本機とコンピューターを接続しておきます。

◆ 接続については、「3-2-1 コンピューターとの接続」（19ページ）をご覧ください。

本機に接続したコンピューターで以下のいずれかを実行します。

- Windowsの［スタート］ボタンをクリックし、「すべてのプログラム(P)」>「Sony XDCAM Viewer」を選択する。
- Windowsのエクスプローラ上などでMXFファイルのファイル名をダブルクリックする。（ダブルクリックしたMXFファイルごとに、そのファイルがロードされた状態でXDCAM Viewerが起動する。）
  または、右クリックで表示されるコンテキストメニューから「Sony XDCAM Viewerで再生(P)」を選択する。
- デスクトップの「Sony XDCAM Viewer」アイコンをダブルクリックする（ショートカットを作成した場合）。

## 5-3-2 終了する

以下のいずれかを実行します。

- 「ファイル」メニューで「終了」を選択する。
- ウィンドウ右上の×（閉じる）ボタンをクリックする。

# 5-4 XDCAM Transfer PDZK-P1 の起動と終了（Macintosh のみ）

## 5-4-1 起動する

あらかじめ本機とコンピューターを接続しておきます。

◆ 接続については、「3-2-1 コンピューターとの接続」（19 ページ）をご覧ください。

本機に接続したコンピューターで以下のいずれかを実行します。

- 本ソフトウェアをインストールしたフォルダーを開き、XDCAM Transfer をダブルクリックします。
- Finder にある XDCAM Transfer のアイコンをダブルクリックします。
- Final Cut Pro のメニューから、「ファイル」メニューの「読み込み」>「Sony XDCAM...」を選択します。

本ソフトウェアが起動しているときは、Dock にアイコンが表示されます。

## 5-4-2 終了する

「XDCAM Transfer」メニューの「Quit XDCAM Transfer （XDCAM Transfer を終了する）」を選択します。

# 付録

## 使用上のご注意

### 結露について

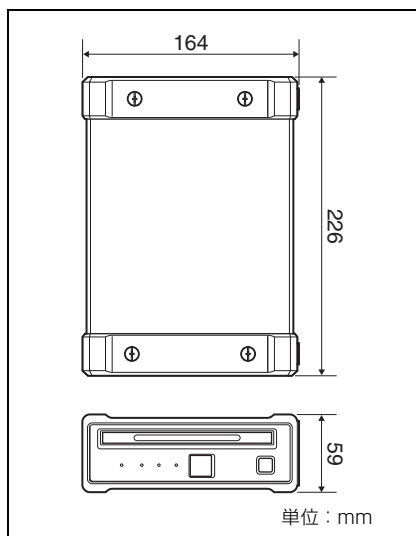
本機を冷たい場所から暖かい場所へ移したり、湿気の多い場所で使用したりすると、空気中に含まれる水蒸気が、光学ピックアップに水滴となって付着することがあります。これを結露といい、このような状態で本機を使用すると読み出しや書き込みが正常に行われない可能性があります。

結露に対処する方法として、以下の点にご注意ください。

- 結露の可能性のある状況で本機を移動するときは、あらかじめディスクを挿入しておいてください。
- ⏻（電源）ボタンをオンにしたとき、ERROR/ALARM インジケーターが点灯し、ユーティリティーソフトウェアのアラームログに「HUMID!」と表示された場合は、インジケーターが消灯するまでディスクを入れないでください。

## 仕様

### 一般

電源　DC 12V
消費電力　10W
動作温度　5°C ～ 40°C
保存温度　－ 20°C ～＋ 60°C
動作湿度　20％～ 90％（相対湿度）
質量　1.4kg
外形寸法（幅 / 高さ / 奥行き）
59 × 164 × 226mm

## システム

読み出し / 書き込みフォーマット
ビデオ
MPEG HD（50/35/25/18Mbps）、
MPEG IMX（50/40/30Mbps）、DVCAM（25Mbps）
プロキシビデオ
MPEG-4
オーディオ
MPEG HD：16bits/48kHz（2/4ch）または 24bits/48kHz（8ch）
MPEG IMX：16bits/48kHz（8ch）または 24bits/48kHz（4ch）
DVCAM：16bits/48kHz（4ch）
プロキシオーディオ
A-law（8/4ch, 8bits、8kHz）

記録 / 再生時間（1 層ディスク）
MPEG HD422
50Mbps：約 43 分
MPEG HD（4ch）
35Mbps：約 65 分
25Mbps：約 85 分
18Mbps：約 112 分
MPEG HD（2ch）
35Mbps：約 68 分
25Mbps：約 90 分
18Mbps：約 122 分
MPEG IMX
50Mbps：約 45 分
40Mbps：約 55 分
30Mbps：約 68 分
DVCAM：約 85 分
記録 / 再生時間（2 層ディスク）
MPEG HD422
50Mbps：約 95 分
MPEG HD （4ch）
35Mbps：約 145 分
25Mbps：約 190 分
18Mbps：約 248 分
MPEG HD （2ch）
35Mbps：約 150 分
25Mbps：約 200 分
18Mbps：約 265 分
MPEG IMX
50Mbps：約 100 分
40Mbps：約 120 分
30Mbps：約 150 分
DVCAM：約 185 分

## 入出力端子

USB 端子（Hi-Speed USB 対応）

## 付属品

オペレーションマニュアル（1）
PDW-U1 CD-ROM （1）
- XDCAM Drive Software
- ユーティリティーソフトウェア

XDCAM Application Software CD-ROM（1）
- Proxy Browsing Software PDZ-1
- XDCAM Viewer PDZ-VX10
- XDCAM Transfer PDZK-P1

AC アダプター（1-468-626-6x）（1）
USB ケーブル（1-757-429-2x）（1）

## 別売りアクセサリー

電源コード（125V/6A、2m）
1-792-549-1x

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

- 必ず事前に記録テストを行い、正常に記録されていることを確認してください。本機や記録メディア、外部ストレージなどを使用中、万一これらの不具合により記録されなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。
- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

## WARNING

To reduce the risk of fire or electric shock, do not expose this apparatus to rain or moisture.
To avoid electrical shock, do not open the cabinet. Refer servicing to qualified personnel only.

### WARNING

When installing the unit, incorporate a readily accessible disconnect device in the fixed wiring, or connect the power plug to an easily accessible socket-outlet near the unit. If a fault should occur during operation of the unit, operate the disconnect device to switch the power supply off, or disconnect the power plug.

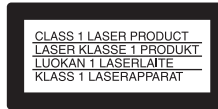
**WARNING:** THIS WARNING IS APPLICABLE FOR USA ONLY.
If used in USA, use the UL LISTED power cord specified below.
DO NOT USE ANY OTHER POWER CORD.

| | |
|---|---|
| Plug Cap | Parallel blade (NEMA 1-15P Configuration) |
| Cord | Type NISPT-2 or SPT-2, two 16 or 18 AWG wires |
| Length | Minimum 1.5 m (4 ft. 11in.), Less than 2.0 m (7 ft.) |
| Rating | Minimum 7A, 125V |

Using this unit at a voltage other than 120V may require the use of a different line cord or attachment plug, or both. To reduce the risk of fire or electric shock, refer servicing to qualified service personnel.

**WARNING:** THIS WARNING IS APPLICABLE FOR OTHER COUNTRIES.

1. Use the approved Power Cord (2-core mains lead) / Appliance Connector / Plug that conforms to the safety regulations of each country if applicable.
2. Use the Power Cord (2-core mains lead) / Appliance Connector / Plug conforming to the proper ratings (Voltage, Ampere).

If you have questions on the use of the above Power Cord / Appliance Connector / Plug, please consult a qualified service personnel.

The PDW-U1 is classified as a CLASS 1 LASER PRODUCT.

### Laser diode properties

Wavelength: 400 to 410 nm
Emission duration: Continuous
Laser output power: 135 mW (max. of pulse peak), 65 mW (max. of CW)

### Tekniska data för laserdiod

Våglängd: 400 till 410 nm
Emissionslängd: Kontinuerlig
Laseruteffekt: 135 mW (max. för pulstopp), 65 mW (max. för kontinuerlig våg)

### Spesifikasjoner laserdiode

Bølgelengde: 400 til 410 nm
Strålingens varighet: Kontinuerlig
Laserens effekt: 135 mW (maks stråletoppunkt), 65 mW (maks ved kontinuerlig stråling)

### Laserdiodin ominaisuudet

Aallon pituus: 400 - 410 nm
Välityksen kesto: Jatkuva
Laserlähdön teho: 135 mW (sykehuipun maks.), 65 mW (jatkuvan aallon maks.)

This label is located inside the right side cover of the unit.

Denna etikett finns på den inre högra sidan av enheten.

Denne mærkat sidder på højre side inde i drevenheden.

Tämä kyltti sijaitsee laitteen kotelon sisäpinnan oikealla puolella.

Dette merket er plassert til høyre på innsiden av enheten.

### CAUTION
The use of optical instruments with this product will increase eye hazard.

### CAUTION
Use of controls or adjustments or performance of procedures other than those specified herein may result in hazardous radiation exposure.

### VAROITUS!
LAITTEEN KÄYTTÄMINEN MUULLA KUIN TÄSSÄ KÄYTTÖOHJEESSA MAINITULLA TAVALLA SAATTAA ALTISTAA KÄYTTÄJÄN TURVALLISUUSLUOKAN 1 YLITTÄVÄLLE NÄKYMÄTTÖMÄLLE LASERSÄTEILYLLE.

### VARNING
OM APPARATEN ANVÄNDS PÅ ANNAT SÄTT ÄN I DENNA BRUKSANVISNING SPECIFICERATS, KAN ANVÄNDAREN UTSÄTTAS FÖR OSYNLIG LASERSTRÅLNING, SOM ÖVERSKRIDER GRÄNSEN FÖR LASERKLASS 1.

### For the customers in the USA
This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures;

– Reorient or relocate the receiving antenna.
– Increase the separation between the equipment and receiver.
– Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
– Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

*If you have any questions about this product, you may call;*
*Sony Customer Information Service Center 1-800-222-7669 or http://www.sony.com/*

Declaration of Conformity

| Trade Name | : | SONY |
|---|---|---|
| Model | : | PDW-U1 |
| Responsible Party | : | Sony Electronics Inc. |
| Address | : | 16530 Via Esprillo, San Diego, CA 92127 U.S.A. |
| Telephone Number | : | 858-942-2230 |

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

GB

You are cautioned that any changes or modifications not expressly approved in this manual could void your authority to operate this equipment.

All interface cables used to connect peripherals must be shielded in order to comply with the limits for a digital device pursuant to Subpart B of Part 15 of FCC Rules.

### For the customers in Canada

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

### For the customers in Europe, Australia and New Zealand

### WARNING

This is a Class A product. In a domestic environment, this product may cause radio interference in which case the user may be required to take adequate measures.

### For the customers in Europe

The manufacturer of this product is Sony Corporation, 1-7-1 Konan, Minato-ku, Tokyo, Japan.
The Authorized Representative for EMC and product safety is Sony Deutschland GmbH, Hedelfinger Strasse 61, 70327 Stuttgart, Germany. For any service or guarantee matters please refer to the addresses given in separate service or guarantee documents.

This apparatus shall not be used in the residential area.

## AVERTISSEMENT

Afin de réduire les risques d’incendie ou d’électrocution, ne pas exposer cet appareil à la pluie ou à l’humidité.
Afin d’écarter tout risque d’électrocution, garder le coffret fermé. Ne confier l’entretien de l’appareil qu’à un personnel qualifié.

### AVERTISSEMENT

Lors de l’installation de l’appareil, incorporer un dispositif de coupure dans le câblage fixe ou brancher la fiche d’alimentation dans une prise murale facilement accessible proche de l’appareil.
En cas de problème lors du fonctionnement de l’appareil, enclencher le dispositif de coupure d’alimentation ou débrancher la fiche d’alimentation.

### AVERTISSEMENT

1. Utilisez un cordon d’alimentation (câble secteur à 2 fils)/fiche femelle/fiche mâle conformes à la réglementation de sécurité locale applicable.
2. Utilisez un cordon d’alimentation (câble secteur à 2 fils)/fiche femelle/fiche mâle avec des caractéristiques nominales (tension, ampérage) appropriées.

Pour toute question sur l’utilisation du cordon d’alimentation/fiche femelle/fiche mâle ci-dessus, consultez un technicien du service après-vente qualifié.

### Pour les clients au Canada

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

### Pour les clients en Europe, Australie et Nouvelle-Zélande

### AVERTISSEMENT

Il s’agit d’un produit de Classe A. Dans un environnement domestique, cet appareil peut provoquer des interférences radio, dans ce cas l’utilisateur peut être amené à prendre des mesures appropriées.

## Pour les clients en Europe

Le fabricant de ce produit est Sony Corporation, 1-7-1 Konan, Minato-ku, Tokyo, Japon.
Le représentant autorisé pour EMC et la sécurité des produits est Sony Deutschland GmbH, Hedelfinger Strasse 61, 70327 Stuttgart, Allemagne. Pour toute question concernant le service ou la garantie, veuillez consulter les adresses indiquées dans les documents de service ou de garantie séparés.

Ne pas utiliser cet appareil dans une zone résidentielle.

Cette étiquette est placée sur le panneau latéral de droite de l'unité.

## WARNUNG

Um die Gefahr von Bränden oder elektrischen Schlägen zu verringern, darf dieses Gerät nicht Regen oder Feuchtigkeit ausgesetzt werden.
Um einen elektrischen Schlag zu vermeiden, darf das Gehäuse nicht geöffnet werden. Überlassen Sie Wartungsarbeiten stets nur qualifiziertem Fachpersonal.

### WARNUNG

Beim Einbau des Geräts ist daher im Festkabel ein leicht zugänglicher Unterbrecher einzufügen, oder der Netzstecker muss mit einer in der Nähe des Geräts befindlichen, leicht zugänglichen Wandsteckdose verbunden werden. Wenn während des Betriebs eine Funktionsstörung auftritt, ist der Unterbrecher zu betätigen bzw. Der Netzstecker abzuziehen, damit die Stromversorgung zum Gerät unterbrochen wird.

### WARNUNG

1. Verwenden Sie ein zugelassenes Netzkabel (2-Leiter-Netzkabel) und einen Gerätestecker, die den Sicherheitsvorschriften des jeweiligen Landes entsprechen, falls zutreffend.
2. Verwenden Sie ein Netzkabel (2-Leiter-Netzkabel) und einen Gerätestecker, die den Leistungsanforderungen (Spannung, Stromstärke) genügen.

Falls Sie Fragen zum Gebrauch des obigen Netzkabels/Gerätesteckers haben, wenden Sie sich bitte an qualifiziertes Kundendienstpersonal.

### Eigenschaften der Laserdiode

Wellenlänge: 400 bis 410 nm
Emissionsdauer. Ununterbrochen
Laser-Ausgangsleistung: 135 mW (max. Impulsspitze), 65 mW (max. Dauerstrich)

## Für Kunden in Europa, Australien und Neuseeland

### WARNUNG

Dies ist eine Einrichtung, welche die Funk-Entstörung nach Klasse A besitzt. Diese Einrichtung kann im Wohnbereich Funkstörungen verursachen; in diesem Fall kann vom Betreiber verlangt werden, angemessene Maßnahmen durchzuführen und dafür aufzukommen.

## Für Kunden in Europa

Der Hersteller dieses Produkts ist Sony Corporation, 1-7-1 Konan, Minato-ku, Tokyo, Japan.
Der autorisierte Repräsentant für EMV und Produktsicherheit ist Sony Deutschland GmbH, Hedelfinger Strasse 61, 70327 Stuttgart, Deutschland. Bei jeglichen Angelegenheiten in Bezug auf Kundendienst oder Garantie wenden Sie sich bitte an die in den separaten Kundendienst- oder Garantiedokumenten aufgeführten Anschriften.

Dieser Apparat darf nicht im Wohnbereich verwendet werden.

Dieser Aufkleber befindet sich auf der Innenseite der rechten Seitenabdeckung der Einheit.

# Table of Contents

## Chapter 1 Overview



## Chapter 2 Names and Functions of Parts



## Chapter 3 Preparations



## Chapter 4 Handling Files

## Chapter 5 Using the Software



## Appendix

# Overview

Chapter 1

## 1-1 Features

The PDW-U1 is a compact and lightweight disc drive which, when connected to a nonlinear editor, enables reading and writing of video and audio data. In combination with a laptop computer, it can be used in the field, and together with a nonlinear editor, it provides an ideal inexpensive video production system.
The features of the PDW-U1 include the following.

### Support for all XDCAM formats

Reading and writing are supported in all formats adopted by the XDCAM [1] series, that is, MPEG HD422, MPEG HD, MPEG IMX, and DVCAM, in addition to all bit rates.

1) XDCAM is a trademark of Sony Corporation.

### Support for mixed format recording mode

As long as the frame frequency group is the same, clips in different recording formats can be recorded or written to the same disc. [1]
The system frequencies supported by this unit are divided into frame frequency groups, as shown in the following table.

1) The recording format is regarded as different whenever the system frequency, video resolution, video codec/bit rate, or number of audio channels or number of bits does not match.

| Frame frequency group | System frequency |
|---|---|
| 59.94Hz | 59.94P |
| | 59.94i |
| | 29.97P |
| 50Hz | 50P |
| | 50i |
| | 25P |
| 23.98Hz | 23.98P |

You can record clips with different recording formats, for example HD422 and HD420SP clips, by putting this unit into mixed format recording mode.

**Note**

Continuous playback may not be possible at the transition point between two clips with different recording formats.

### Support for dual-layer discs

In addition to conventional single-layer discs (23.3 GB), dual-layer discs (50 GB) are also supported.

### IT-friendly system through USB interface

The interface is the very widely used high-speed USB (USB 2.0), enabling easy connection to a computer. The PDW-U1 can be used in the same way that an external

drive is used to load data files from the drive into the computer, and to write data files from the computer to the drive.

## User data recording mode

User data (files other than XDCAM AV files) can be recorded on Professional Discs as PC data via the USB interface. This allows Professional Discs to be used as data recording media, with a data storage capacity of 46.4 GB (when dual-layer PFD50DLA discs are used).

**Note**

Directly editing or executing the files stored in the UserData directory may cause an error depending on the type or setting of the application for it.
Specifically direct execution of the application which attempts to create a temporary work area in the directory and the executable file stored in the directory must be avoided.

## High data transfer rates

The newly-developed optical drive allows high-speed access (maximum read speed 120 Mbps, maximum write speed 84 Mbps) from a nonlinear editing system.

## Preview and simple editing using supplied software

Using the supplied PDZ-VX10 XDCAM Viewer (for Windows), you can preview material simply. Further using the supplied PDZ-1 Proxy Browsing Software (for Windows), you can carry out simple editing and adding of metadata. Additionally, the supplied PDZK-P1 XDCAM Transfer (for Macintosh) allows the XDCAM material to be used with the Apple Final Cut Pro [1) ] video editing software.

1) Final Cut Pro is a trademark of Apple, Inc., registered in the United States and other countries.

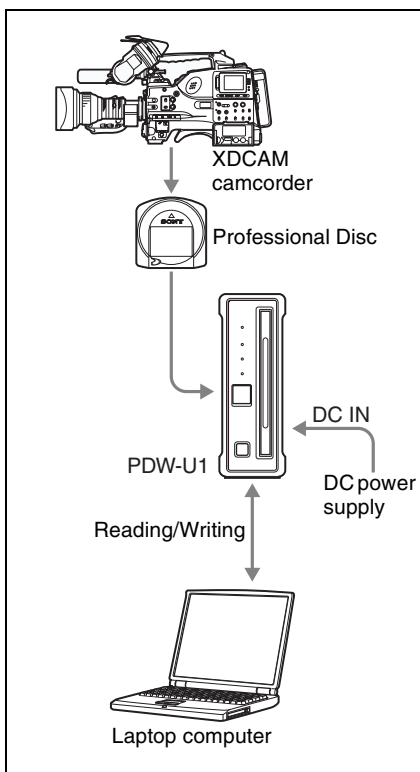
## Lightweight and compact field specification

The unit is designed to be lightweight and compact for use in the field. The mechanical construction is highly resistant to shocks and dust.

## Menu operation from a computer using the utility software

By installing the supplied utility software in a computer connected to this unit, you can make settings or upgrade the unit by means of menu operations on the computer.

# 1-2 Example of Use

The following figure shows an example system for reading or writing material recorded with a XDCAM camcorder on a computer connected to this unit.

# 1-3 Supplied Software

## 1-3-1 List of the Software

The following software are supplied with the unit.

| Software | Supported OS | Function | Recording medium |
|---|---|---|---|
| XDCAM Drive Software | Windows/ Macintosh | Allows video and audio data to be handled as files on a computer connected to this unit. | PDW-U1 CD-ROM |
| Utility Software | Windows/ Macintosh | Provides the following functions on a computer connected to this unit.<br>• Displaying device information<br>• Disc format and recovery<br>• Firmware updates<br>• Making settings | |
| PDZ-1 Proxy Browsing Software | Windows | Organizes clips recorded on a Professional Disc. You can play back clips that have been shot, and select and mark particular portions for subsequent editing. With the PDZ-1 software, you can also create a simple editing list by arranging clips and portions of video around marked shots. By connecting to a Professional Disc device, you can also attach marks and comments to recorded clips. | XDCAM Application Software CD-ROM |
| PDZ-VX10 XDCAM Viewer | Windows | This allows material recorded on a Professional Disc (MXF files) to be played back as audio and video, for checking. You can play not only proxy AV data, but also the material at its original image quality. You can also check the MXF file metadata, start timecode, and so on. | |
| PDZK-P1 XDCAM Transfer | Macintosh | You can edit material recorded on a Professional Disc (MXF files) with the Apple Final Cut Pro video editing software. | |

## 1-3-2 System Requirements

The supplied set of software has been tested and found to run under the following conditions.

**Note**

These test results may not apply to all computers.

### Windows

| Item | Requirement |
|---|---|
| Processor | Intel Core 2 Duo 2.66 GHz or higher, or Intel Xeon 2 GHz or higher |
| Memory | 1 GB or more |
| Free hard disk space | 2 GB or more |
| Monitor | — |
| Operating system | Microsoft Windows XP Professional Service Pack 3 or later<br>Microsoft Windows Vista Business 32-bit/64-bit version, Service Pack 2 or later<br>Microsoft Windows Vista Ultimate 32-bit/64-bit version, Service Pack 2 or later<br>Microsoft Windows 7 Professional 32-bit/64-bit version<br>Microsoft Windows 7 Ultimate 32-bit/64-bit version |
| Other | Hi-Speed USB (USB 2.0)<br>(High-Speed USB (USB 2.0) host controller is necessary to connect the computer to this unit.) |

### Macintosh

| Item | Requirement |
|---|---|
| Processor | Intel Core 2 Duo 2.2 GHz, or Intel Xeon 2 GHz or higher |
| Memory | 1 GB or more |
| Free hard disk space | 2 GB or more |
| Monitor | Resolution: 1280 × 1024 pixels or better |
| Operating system | Mac OS X 10.5.8 or later<br>Mac OS X 10.6.2 or later |
| Other | Hi-Speed USB (USB 2.0)<br>(High-Speed USB (USB 2.0) host controller is necessary to connect the computer to this unit.) |

*If you are using the Apple Final Cut Pro video editing software, use it together with the latest version of the PDZK-P1 XDCAM Transfer.*

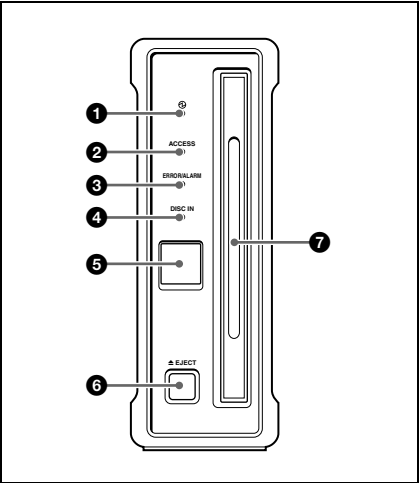
*For more details of each software, see page 69.*

**Note**

With regard to the above operating environment, note the following points.

- XDCAM Drive Software does not support PowerPC or Mac OS X 10.4.
- If you are using a PowerPC Macintosh computer and Mac OS X 10.4.11, the PDZK-P1 XDCAM Transfer provides for a read-only function only.

# Names and Functions of Parts

## 2-1 Front Panel

**1 (power) indicator**
Lights green when the (power) button on the rear panel is on.

**2 ACCESS indicator**
Flashes blue when the disc is being accessed from the computer.

**Note**

Do not press the (power) button on the rear panel to turn off, or disconnect the power cord while the ACCESS indictor is flashing. Doing so may lead to a loss of data on the disc.

**3 ERROR/ALARM indicator**
If a fault occurs in the unit, this lights continuously or flashes red, as shown in the following table.

| Indicator | Meaning |
|---|---|
| Lit continuously | Condensation has occurred. |
| Flashing four times a second | An error occurred (principally a hardware default). |
| Flashing once a second | An alarm not listed above occurred. |

**Note**

The indicator may flash or light only for five seconds depending on the alarm.

*You can check alarms generated by this unit, using the alarm log of the utility software. For details, refer to the help file of the utility software.*

*If the indicator is flashing four times a second, and it is not possible to check the alarm log, a malfunction may have occurred. In this case, contact your Sony service representative.*

When the error is eliminated, the indicator goes off.

**4 DISC IN indicator**
Lights green when a disc is loaded.

**5 Manual eject mechanism**
When there is no power supply to the unit, to eject the disc, remove the cover over this part, then turn the screw counterclockwise with a Phillips screwdriver.

*For details, see 3-4-5 "To Eject Discs With the Unit Powered Off" (page 59).*

**❻ EJECT button**

Ejects a disc *(see page 59)*.

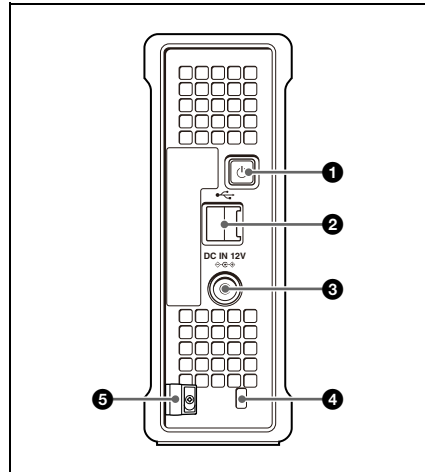
**Notes**

- This button is disabled while the disc is being accessed. Either stop accessing the disc before ejecting, or eject by an operation from the computer.
- When this unit is connected to a Macintosh computer, this button is disabled.

**❼ Disc slot**

With the label surface on the right, insert the disc *(see page 59)*.



# 2-2 Rear Panel

**❶ ⏻ (power) button**

This switches the power on and off.

**❷ USB connector (Hi-speed USB)**

Use the supplied USB cable to connect to the computer.

**Note**

If the video and audio are not output on a computer connected using the USB connector, try disconnecting the USB cable, and reconnect making sure it is correctly inserted.

**❸ DC power inlet connector**

Connect to the AC power using the supplied AC adaptor and a power cord (not supplied).

**❹ Security slot**

You can fit a commercially available security cable into this slot.

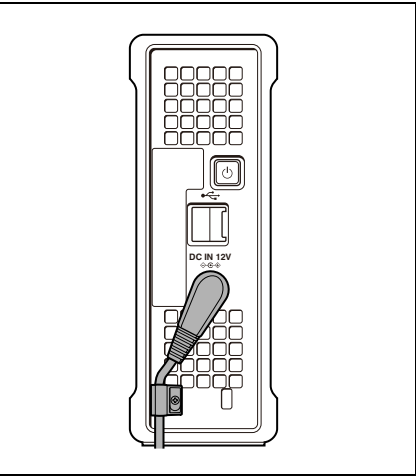
*For information about how to use your security cable, refer to the instructions provided with the security cable.*

### ❺ Cable clamper

Use this clamper to fix the cable of the AC adaptor.

Clip the cable with the clamper as shown in the following figure.

# Preparations

Chapter

## 3-1 Software Installation

To use this unit, the necessary software must first be installed on the computer to which it is connected.

**Note**

Operation of the XDCAM Drive Software may be unstable if it is installed together with some anti-virus software, spy-ware tools, or UDF2.5 file system drivers other than the operating system standard.
If the installation cannot be completed successfully, check the settings for conflicts with this other software, then try reinstalling.

### 3-1-1 Windows Installation

#### To install the XDCAM Drive Software and utility software

Load the supplied PDW-U1 CD-ROM into the computer's CD-ROM drive, and run the program Setup.exe in the XDCAM Drive Software folder on the CD-ROM. Follow the directions on screen to install the XDCAM Drive Software, and then the utility software.

**Notes**

- If an old version of the XDCAM Drive Software is already installed, it must be uninstalled before you install the new version. Use "Add or Remove Programs" on the Control Panel to remove the old version of the Sony XDCAM Drive Software. After doing so, be sure to restart the computer.
- After installation, the previous settings return to their default values.

### 3-1-2 Macintosh Installation

#### To install the XDCAM Drive Software and utility software

Load the supplied PDW-U1 CD-ROM into the computer's CD-ROM drive, and unzip the file XDCAM Drive Software.dmg which is located in the Macintosh folder on the CD-ROM, and then run the installation package. Follow the directions on screen to install the XDCAM Drive Software, and then the utility software.

**Note**

Installing the XDCAM Drive Software and utility software overwrites a previous installation.
If you are using version 1.0 of the utility software installed somewhere other than the factory default, remove it manually.
Settings from version 2.1 and later are preserved after the new installation.

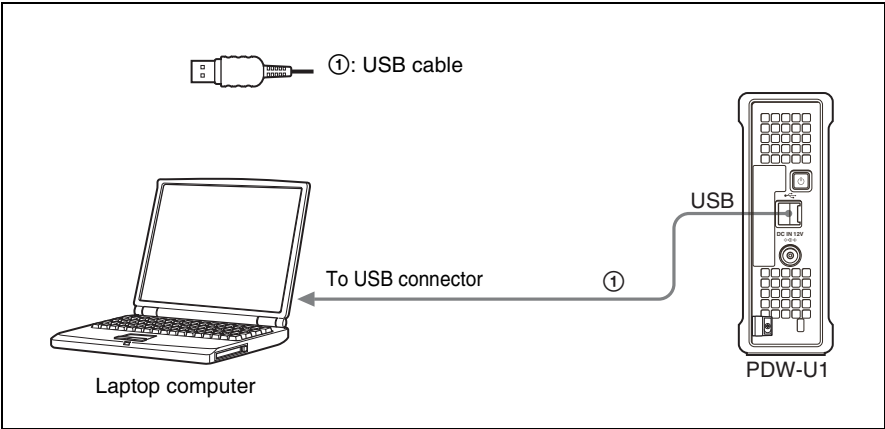
# 3-2 Connections and Settings

## 3-2-1 Connecting to a Computer

By connecting this unit to a computer, you can use the utility software, and the other supplied software.

**Notes**

- The XDCAM Drive Software *(see page 56)* must be installed in advance.
- To disconnect the PDW-U1 from a Windows computer, run the "Safely Remove Hardware" dialog, and then disconnect the cable.

### Example connection

# 3-3 Power Preparations

This unit can be powered by AC adaptor. Connect the supplied AC adaptor and a power cord (not supplied) to the DC power inlet connector *(page 54)* on the rear panel of the unit.

**Note**

It is not possible to power this unit through a USB cable.

# 3-4 Handling Discs

## 3-4-1 Discs Used for Reading and Writing

This unit uses the following professional discs for reading and writing:

- PFD23 (capacity 23.3 GB)
- PFD23A (capacity 23.3 GB)
- PFD50DLA (capacity 50.0 GB)

**Note**

This unit cannot read or write the following discs.

- Blu-ray Disc
- Professional Disc for Data

## 3-4-2 Notes on Handling

### Handling

The Professional Disc is housed in a cartridge, and is designed to allow handling free of risk from dust or fingerprints. However, if the cartridge is subjected to a severe shock, for example by dropping it, this can result in damage or scratching of the disc. If the disc is scratched, it may be impossible to record video/audio, or to play back the content recorded on the disc. The discs should be handled and stored carefully.

- Do not touch the surface of the disc itself within the cartridge.
- Deliberately opening the shutter may cause damage.
- Do not disassemble the cartridge.
- The supplied adhesive labels are recommended for indexing discs. Apply the label in the correct position.

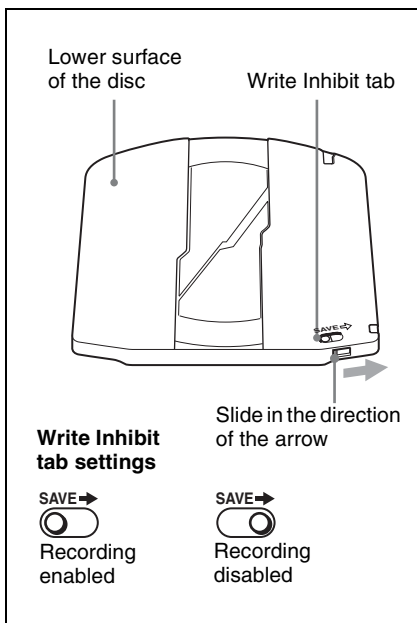
### Storage

- Do not store discs where they may be subjected to direct sunlight, or in other places where the temperature or humidity is high.
- Do not leave cartridges where dust may be able to gain ingress.
- Store cartridges in their cases.

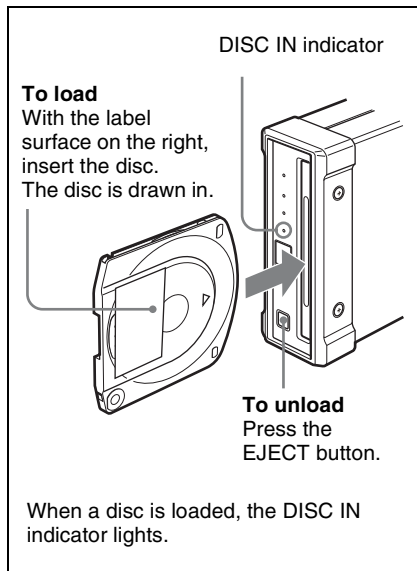
### Care of the discs

- Remove dust and dirt on the outside of a cartridge using a soft dry cloth.
- If condensation forms, allow ample time to dry before use.

## 3-4-3 Write-Protecting Discs

To protect the content recorded on the disc from accidental erasure, move the write-protect tab on the lower surface of the disc in the direction of the arrow, as shown in the following figure.

## 3-4-4 Loading and Unloading a Disc

To load and unload a disc, press ⏻ (power) button to turn the unit on and light the indicator, and follow the procedures indicated in the next illustration.

When a disc is loaded, the DISC IN indicator lights.

**Note**

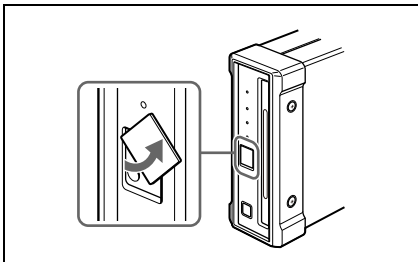
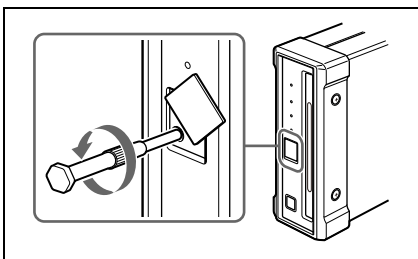
If an unformatted disc is loaded to the unit when the unit is connected to a Macintosh computer, select U1 Utility > Eject from the menu of the utility software to unload the disc.

## 3-4-5 To Eject Discs With the Unit Powered Off

When the power is not supplied, it may not be possible to eject discs by pressing the EJECT button. In these situations, you can use the following as an emergency procedure to eject a disc manually.

**1** Power the unit off.

**2** Turn the cover of the manual eject mechanism on the front panel counterclockwise, as shown in the figure.

Be careful not to turn the cover more than necessary.

**3** Check the position of the screw, then using a Phillips screwdriver, turn the screw counterclockwise until the disc is ejected.

After ejecting the disc, it is not necessary to return the screw to its original position. The next time the unit is powered on, normal operation will resume.

**4** Replace the cover.

## 3-4-6 Media Protection Function

This unit is equipped with a media protection function.

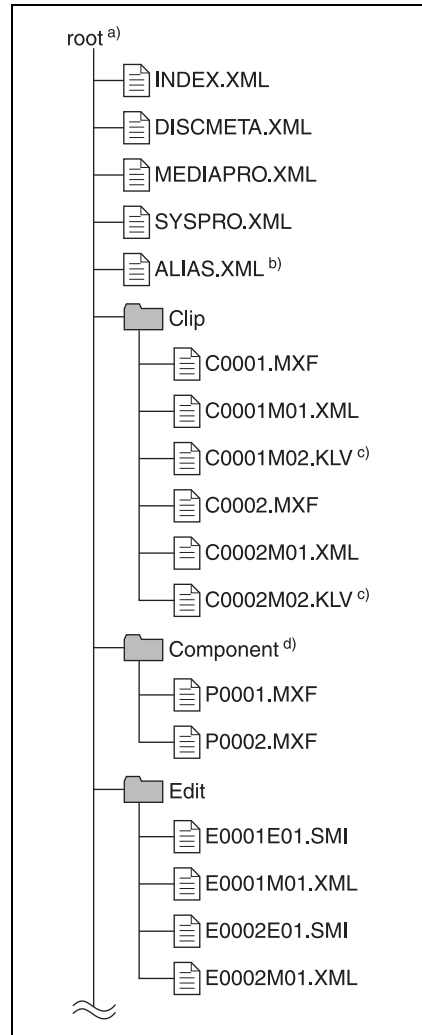
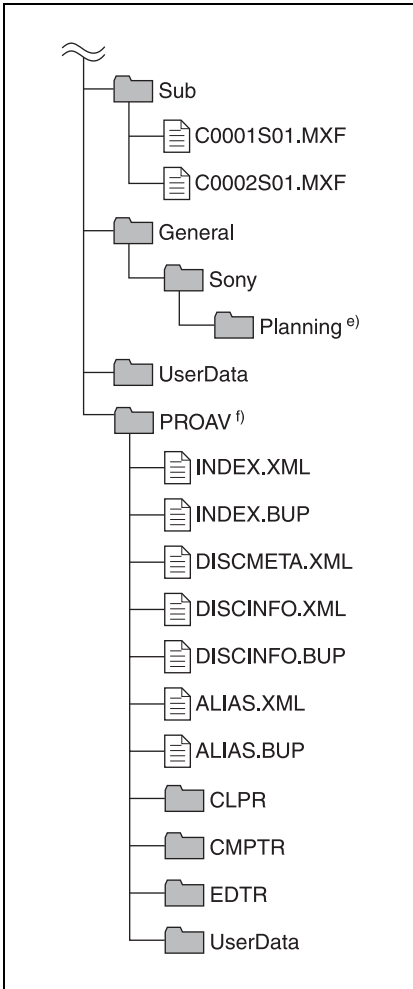
The media protection function means that when a disc is loaded in the unit, if you press the ⏻ (power) button on the rear panel, turning it off, or disconnect the power cord to shut off the AC supply, the unit switches automatically to standby-off mode, and prevent a disc error.

# Handling Files

## 4-1 Overview

When a computer is connected to this unit, you can handle video and audio data as files.

### 4-1-1 Directory Structure

The following figure shows the directory structure of discs visible to a remote computer.

a) Root directory
b) Only when Naming Form is set to “free” in the User Settings screen of the utility software.
c) Only when KLV files are contained.
d) Directories and files automatically created through voice-over editing with a PDW-HR1
e) A directory in which to save planning metadata. *For details about planning metadata, refer to operation manuals for XDCAM devices that support planning metadata.*
f) Only when the “Hide PROAV folder.” check box is not checked in the User Settings screen of the utility software.

## 4-1-2 File Operation Restrictions

This section explains which operations are possible on files stored in each directory.

## Root directory

| File name | Content | Operations | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | Read | Write | Rename | Create | Delete |
| INDEX.XML | Contains data for management of the audio/video material on the disc. | Yes | No | No | No | No |
| DISCMETA.XML | Contains metadata to indicate the disc properties. | Yes | Yes [a] | No | No | No |
| MEDIAPRO.XML | Contains a list of audio/video material on the disc, basic properties, related information, and information about access methods. | Yes | No | No | No | No |
| SYSPRO.XML | Contains information about device system settings and menu settings. | Yes | No | No | No | No |
| ALIAS.XML [b] | Contains conversion tables for assigning user-defined names to clips and clip lists. | Yes | No | No | No | No |
| Other files | Files other than the above | — | No | — | No | — |

a) Only files which can be written by an XDCAM device.
b) Only when Naming Form is set to “free” in the User Settings screen of the utility software.

**Notes**

- Directories cannot be created in the root directory.
- The directories in the root directory (Clip, Component, Edit, Sub, UserData, PROAV and General) cannot be deleted or renamed.

## Clip directory

| File name | Content | Operations | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | Read | Write | Rename | Create | Delete |
| C*.MXF a) | Clip file created by recording (MXF file)<br>*: 0001 to 9999 | Yes | Yes b) c) | Yes | Yes b) | Yes d) |
| C*M01.XML a) | Metadata file generated automatically when C*.MXF file is created.<br>*: 0001 to 9999 | Yes | Yes e) | No f) | No g) | No h) |
| Other files | Files other than the above | — | No | — | No | — |

a) The unit can handle files with user-defined names in the "C*" part.
b) Only files which are 2 seconds or longer in length, in a format matching the format (system frequency) and recording format (MPEG HD/IMX and number of audio channels) of the recorded sections of the disc, and which can be overwritten by an XDCAM device.
c) Overwriting is not possible.
d) When the "Make the drives recinhibit." check box is not checked in the utility software, you can select and delete any clip.
e) Only files which can be written by an XDCAM device.
f) When the "C*" part of a C*.MXF file name is changed, a C*M01.XML file with the same name in the "C*" part is also changed automatically.
g) When a C*.MXF file is created, a C*M01.XML file with the same name in the "C*" part is created automatically.
h) When a C*.MXF file is deleted, a C*M01.XML file with the same name in the "C*" part is also deleted automatically.

**Note**

Directories cannot be created in the Clip directory.

## Component directory

| File name | Content | Operations | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | Read | Write | Rename | Create | Delete |
| P*.MXF a) | Directories and files played back after voice-over editing with a PDW-HR1<br>*: 0001 to 0099 | Yes a) | Yes b) c) d) e) | Yes e) | Yes b) d) | Yes f) |
| Other files | Files other than the above | No | No | No | No | No |

a) The unit can handle files with user-defined names in the "P*" part.
b) Only files which can be written by an XDCAM device and which are 2 seconds or longer in length.
c) Overwriting is not possible.

d) Multiple files cannot be opened simultaneously.
e) Only when the utility software user setting window has "Naming From" set to "free".
f) Any clip can be selectively deleted.

**Note**

It is not possible to create a directory within the Component directory.

## Edit directory

| File name | Content | Operations | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | Read | Write | Rename | Create | Delete |
| E*E01.SMI [a] | Clip list file<br>*: 0001 to 0099 | Yes | Yes [b] | Yes | Yes [c] | Yes [d] |
| E*M01.XML [a] | Metadata file generated automatically when E*E01.MXF file is created.<br>*: 0001 to 0099 | Yes | Yes [b] | No [e] | No [f] | No [g] |
| Other files | Files other than the above | — | No | — | No | — |

a) The unit can handle files with user-defined names in the "E*" part.
b) Only files which can be written by an XDCAM device. Partial writing is not possible.
c) Only files which can be written by an XDCAM device.
d) When the "Make the drives RecInhibit." check box is not checked in the utility software.
e) When the "E*" part of an E*01.SMI file name is changed, an E*M01.XML file with the same name in the "E*" part is also changed automatically.
f) When an E*E01.SMI file is created, an E*M01.XML file with the same name in the "E*" part is also generated automatically.
g) When an E*E01.SMI file is deleted, an E*M01.XML file with the same name in the "E*" part is also deleted automatically.

**Note**

Directories cannot be created in the Edit directory.

## Sub directory

| File name | Content | Operations | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | Read | Write | Rename | Create | Delete |
| C*S01.MXF [a] | Proxy AV data (MXF file) generated automatically when a C*.MXF file is created.<br>*: 0001 to 9999 | Yes | No | No [b] | No [c] | No [d] |
| Other files | Files other than the above | — | No | — | No | — |

a) The unit can handle files with user-defined names in the "C*" part.
b) When the "C*" part of a C*.MXF file name is changed, a C*S01.MXF file with the same name in the "C*" part is changed automatically.
c) When a C*.MXF file is created, a C*S01.XML file with the same name in the "C*" part is generated automatically.
d) When a C*.MXF file is deleted, the C*S01.XML file with the same name in the "C*" part is also deleted automatically.

**Note**

Directories cannot be created in the Sub directory.

## General directory

| File name | Content | Operations | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | Read | Write | Rename | Create | Delete |
| Any file | | Yes | Yes | Yes a) | Yes | Yes b) |

a) UTF-8 file names can be up to 63 bytes in length. (Depending on the character type or the operation system, file names (including extension) may be limited to 21 characters.)
b) When the "Make the drives RecInhibit." check box is not checked in the utility software.

The following directory operations are possible in the General directory.
- Directory creation (up to 63 levels, including the General directory)
- Deletion and renaming of directories

## UserData directory

| File name | Content | Operations | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | Read | Write | Rename | Create | Delete |
| Any file | | Yes | Yes | Yes a) | Yes | Yes |

a) UTF-8 file names can be up to 63 bytes in length. (Depending on the character type, file names (including extension) may be limited to 21 characters.)

The following directory operations are possible in the UserData directory.
- Directory creation (up to 62 levels, including the UserData directory)
- Deletion and renaming of directories

**Note**

Note that directly editing or executing the files stored in the UserData directory may cause an error depending on the type or setting of the application for it. Specifically direct execution of the application which attempts to create a temporary work area in the directory and the executable file stored in the directory must be avoided.

# 4-2 Preparations for File Access

1. Connect this unit to a computer *(page 57)*.
2. Turn this unit and the computer on.
3. In the utility software setup menu, set items as required.

   *For details of the setup menu, refer to the help file of the utility software.*
4. Insert a disc into this unit *(page 59)*.

# 4-3 File Access Operations

## Accessing files with nonlinear editing software

*For details of the file access operations, refer to the manual provided with the editing software to be used.*

## Accessing files with Explorer/ Finder

Start Windows Explorer or Macintosh Finder and check that a drive letter has been assigned to this unit. (The drive letter will differ depending on the number of other peripherals connected to the remote computer.)
You can perform file operations on the disc loaded in this unit in the same way that you operate on local drives and files on network computers.

**Note**

All file operations are not possible for some types of files.

*For details, see 4-1-2 "File Operation Restrictions" (page 62).*

### To eject discs from a remote computer

For Windows, right click the icon representing this unit in Explorer, and select Eject from the menu which appears.
On a Macintosh, click the Eject button to the right of the Finder icon for this unit, or drag to the eject icon in the Dock.

## Using PDZ-1 Proxy Browsing Software (Windows only)

When a computer with the PDZ-1 Proxy Browsing Software installed is connected to this unit, you can transfer the proxy AV data and metadata files recorded on a disc to the computer. On the computer side, PDZ-1 enables you to browse the proxy AV data, add or modify metadata (titles, comments, essence marks, etc.), or create a clip list.

*For the functions and operation details of the PDZ-1 Proxy Browsing Software, refer to the help file.*

## Using the PDZK-P1 XDCAM Transfer (Macintosh only)

Using the PDZK-P1 XDCAM Transfer, you can transfer data recorded in an XDCAM device as a file to the Apple Final Cut Pro video editing software. You can also browse transferred proxy AV data, and view clips and thumbnails.

*For more details of the functions and operating methods of the PDZK-P1 XDCAM Transfer, refer to the help file.*

# Using the Software

## 5-1 Starting and Exiting the Utility Software

### 5-1-1 Starting

First make sure that this unit is connected to the computer.

*For connection details, see 3-2-1 "Connecting to a Computer" (page 57).*

#### On a Windows computer

With the computer connected to this unit, carry out any of the following.

- Open the folder in which the utility software is installed, then double click on U1_Utility.exe.
- Click the Start button, and then select "All Programs" > "Sony XDCAM Drive" > "U1 Utility."

The utility software behaves as follows.

#### When using Windows XP

The behavior of the utility software depends on the type of user accounts.

| Type of user account | Behavior of the utility software |
|---|---|
| Limited | Does not run |
| Computer administrator | Runs and opens the home window |

#### When using Windows Vista

The behavior of the utility software depends on the setting of User Account Control (enabled or disabled), and not on the type of user account (computer administrator or standard user).

| Setting of User Account Control | Behavior of the utility software |
|---|---|
| Enabled | Demands permission prior to running [a] |
| Disabled | Runs |

a) A dialog appears demanding permission to continue with computer administrator privileges after disabling User Account Control.
If the permission is given, the utility software will run and open the home window. In this case, you can use all the functions of the utility software.
If the permission is not given, the utility software will inform which restrictions will be imposed and then run. In this case, you cannot change the settings in the User Settings screen or use a log deletion function.

#### When using Windows 7

The behavior of the software depends on the type of user account (computer administrator or standard user) and on the setting of User Account Control (enabled: levels 1 to 3, disabled: level 0).

**As administrator**

| Setting of User Account Control | Behavior of the utility software |
|---|---|
| Enabled | Demands permission prior to running a) |
| Disabled | Runs |

a) A dialog appears demanding permission to continue with computer administrator privileges after disabling User Account Control.
If the permission is given, the utility software will run and open the home window. In this case, you can use all the functions of the utility software.
If the permission is not given, the utility software will inform which restrictions will be imposed and then run. In this case, you cannot change the settings in the User Settings screen or use a log deletion function.

**As standard user**

| Setting of User Account Control | Behavior of the utility software |
|---|---|
| Enabled Demands | After confirmation, runs in restricted mode a) |
| Disabled | |

a) A privilege escalation dialog appears, then the utility software starts. You cannot change the settings in the User Settings screen or use a log deletion function.

### On a Macintosh computer

Open the folder in which the utility software is installed, and then double click U1 Utility.

This displays the home window of the utility software.

**Note**

You must log on to the computer as a user with Computer Administrator privileges to be able to change the settings in the User Settings screen of the utility software.

## 5-1-2 Exiting

### On a Windows computer

Click the × (close) button in the top right corner of the window.

### On a Macintosh computer

From the U1 Utility menu, select “Exit U1 Utility.”

## 5-1-3 Automatically Starting the Utility Software (Windows only)

When running under Windows, under the following conditions the utility software may start automatically, and display the home window.

- **When you insert an unformatted disc:**
  In the tree display in the home window, select [Disc Operation Menu] → [Format Screen], and then you can format the inserted disc.

- **When a pre-recorded disc inserted into this unit is unable to be read correctly for any reason:**
  In the tree display in the home window, select [Disc Operation Menu] → [Volume Recovery Screen], and then you can check the contents of the disc.

**Notes**

- Volume recovery is intended principally for use when the computer is unable to read a disc correctly because data writing did not complete correctly, usually as a result of an unintentional power interruption or USB interface

disconnection while writing data.
This operation is not guaranteed to perfectly restore all data to the original state.
Use this function at your own risk, after checking the error codes on the disc information shown, and also if possible checking whether after recovery the disc can be used on a different device.
- When operating the computer under Windows XP as a user with limited access, it is not possible to start the utility software.

# 5-2 Starting and Exiting the PDZ-1 Proxy Browsing Software (Windows only)

## 5-2-1 Starting

First make sure that this unit is connected to the computer.

*For connection details, see 3-2-1 "Connecting to a Computer" (page 57).*

With the computer connected to this unit, carry out any of the following.
- **Copying Data to the PC Before Operation (File Download Mode):**
  Click the Windows Start button, then select "All Programs" > "PDZ-1" > "PDZ-1".
  If the PDZ-1 software is started for the first time after installation, the Browse for Folder window appears. Select the folder in which the PDZ-1 data is to be saved in this window.
  From the second time you start the application on, the PDZ-1 main window appears.
- **Reading and Writing Data Directly from/to a Professional Disc (Direct Access Mode):**
  Click the Windows Start button, then select "All Programs" > "PDZ-1" > "PDZ-1 Direct Mode".
  The PDZ-1 main window appears. The title of the main window is "PDZ-1 FAM Direct Mode."

## 5-2-2 Exiting

On the menu bar, click “File” > “Exit” in turn.

# 5-3 Starting and Exiting the PDZ-VX10 XDCAM Viewer (Windows only)

## 5-3-1 Starting

First make sure that this unit is connected to the computer.

*For connection details, see 3-2-1 “Connecting to a Computer” (page 57).*

With the computer connected to this unit, carry out any of the following.

- Click the Windows Start button, and then select “All Programs” > “Sony XDCAM Viewer.”
- Double click an MXF file in Windows Explorer or right click and select “Play with Sony XDCAM Viewer.” (A new instance of XDCAM Viewer starts with the file loaded every time you double click an MXF file.)
- Double click the “Sony XDCAM Viewer” icon on the desktop (when you have created a shortcut icon).

## 5-3-2 Exiting

Do one of the following.

- Select “Exit” in the “File” menu.
- Click the x (close) button in the top right corner of the window.

# 5-4 Starting and Exiting the PDZK-P1 XDCAM Transfer (Macintosh only)

## 5-4-1 Starting

First make sure that this unit is connected to the computer.

*For connection details, see 3-2-1 "Connecting to a Computer" (page 57).*

With the computer connected to this unit, carry out any of the following.

- Open the folder that you saved the PDZK-P1, and double click "XDCAM Transfer".
- Double click the XDCAM Transfer icon in the Finder.
- Select "File" > "Import" > "Sony XDCAM…"

When this software is launched, an icon is displayed in the Dock.

## 5-4-2 Exiting

Select "Quit XDCAM Transfer" from "XDCAM Transfer" menu.

# Appendix

## Important Notes on Operation

### Condensation

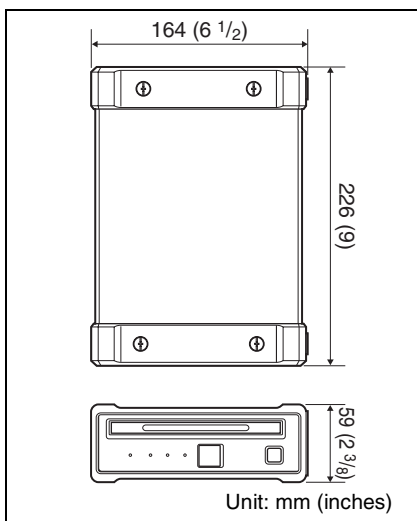
When this unit is moved from a cold place to a warmer place, or operated in high humidity, condensation may form on the optical pickup. If the unit is operated in this state, it may make correct reading and writing impossible.
Note the following points, to avoid problems with condensation.

- If moving the unit in conditions where condensation is possible, make sure the disc is inserted in advance.
- When the ⏻ (power) button is on, if the ERROR/ALARM indicator lights, and "HUMID!" appears in the utility software alarm log, do not insert a disc until the indicator has gone off.

## Specifications

### General

Power requirements
DC 12 V
Power consumption
10 W
Operating temperature
5ºC to 40ºC (41ºF to 104ºF)
Storage temperature
–20ºC to +60ºC (–4ºF to +140ºF)
Operating relative humidity
20% to 90%
Less than 90%
Mass 1.4 kg (3 lb 1 oz)
External dimensions (w/h/d)
59 × 164 × 226 mm
($2^3/_8 \times 6^1/_2 \times 9$ inches)

Appendix

## System

Reading/Writing formats
Video
MPEG HD (50/35/25/18 Mbps), MPEG IMX (50/40/30 Mbps), DVCAM (25 Mbps)
Proxy video
MPEG-4
Audio
MPEG HD: 16 bits/48 kHz (2/4ch) or 24 bits/48 kHz (8ch)
MPEG IMX: 16 bits/48 kHz (8 ch) or 24 bits/48 kHz (4 ch)
DVCAM: 16 bits/48 kHz (4 ch)
Proxy audio
A-law (8/4 channels, 8 bits, 8 kHz)

Recording/Playback times (single layer disc)
MPEG HD422
50 Mbps: Approx. 43 min.
MPEG HD (4 ch)
35 Mbps: Approx. 65 min.
25 Mbps: Approx. 85 min.
18 Mbps: Approx. 112 min.
MPEG HD (2 ch)
35 Mbps: Approx. 68 min.
25 Mbps: Approx. 90 min.
18 Mbps: Approx. 122 min.
MPEG IMX
50 Mbps: Approx. 45 min.
40 Mbps: Approx. 55 min.
30 Mbps: Approx. 68 min.
DVCAM: Approx. 85 min.
Recording/Playback times (dual-layer disc)
MPEG HD422
50 Mbps: Approx. 95 min.
MPEG HD (4 ch)
35 Mbps: Approx. 145 min.
25 Mbps: Approx. 190 min.
18 Mbps: Approx. 248 min.
MPEG HD (2 ch)
35 Mbps: Approx. 150 min.
25 Mbps: Approx. 200 min.
18 Mbps: Approx. 265 min.
MPEG IMX
50Mbps: Approx. 100 min.
40Mbps: Approx. 120 min.
30Mbps: Approx. 150 min.
DVCAM: Approx. 185 min.

## Output/input connector

USB Connector (High-Speed USB support)

## Accessories supplied

Operation manual (1)
PDW-U1 CD-ROM (1)
- XDCAM Drive Software
- Utility Software

XDCAM Application Software CD-ROM (1)
- PDZ-1 Proxy Browsing Software
- PDZ-VX10 XDCAM Viewer
- PDZK-P1 XDCAM Transfer

AC adaptor (1-468-626-6x) (1)
USB cable (1-757-429-2x) (1)

## Accessories not supplied

AC power cord (1)

- For the customers in the U.S.A. and Canada
  Part No. 1-757-562-1x (125 V, 7 A, about 2.0 m)
- For the customers in European countries
  Part No. 1-575-131-8x (250 V, 2.5 A, about 2.0 m)

Design and specifications are subject to change without notice.

**Notes**

- Always make a test recording, and verify that it was recorded successfully. SONY WILL NOT BE LIABLE FOR DAMAGES OF ANY KIND INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, COMPENSATION OR REIMBURSEMENT ON ACCOUNT OF FAILURE OF THIS UNIT OR ITS RECORDING MEDIA, EXTERNAL STORAGE SYSTEMS OR ANY OTHER MEDIA OR STORAGE SYSTEMS TO RECORD CONTENT OF ANY TYPE.
- Always verify that the unit is operating properly before use. SONY WILL NOT BE LIABLE FOR DAMAGES OF ANY KIND INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, COMPENSATION OR REIMBURSEMENT ON ACCOUNT OF THE LOSS OF PRESENT OR PROSPECTIVE PROFITS DUE TO FAILURE OF THIS UNIT, EITHER DURING THE WARRANTY PERIOD OR AFTER EXPIRATION OF THE WARRANTY, OR FOR ANY OTHER REASON WHATSOEVER.